

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ホームルーム I		教員名 伊藤 優汰 ／山田 健太郎	
科目時間数： 15 (30) 限 (時間)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： 必修・選択	配当学年： 1 年	開講時期： 前期・後期・集中	
〔授業の目的・ねらい〕 クラスでのイベント、地域での活動を決める (当該科目が最も関連するDPに○) 〔ディプロマポリシーとの関連〕 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
〔授業全体の内容の概要〕 行事の企画・実施 〔授業における達成課題〕 イベントやクラス活動における準備・実施を行う			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (グループワーク評価)			
【備考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】			

科目名		ホームルーム I		科目時間総数	限	教員名
				15 (30)		伊藤 優汰／山田 健太郎
限数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標		
1	限	1時間	2	オリエンテーション	授業の概要について説明	
2	限	3時間	4	HR	必要な話し合い・活動を行う（校内行事など）	
3	限	5時間	6	〃	〃	
4	限	7時間	8	〃	〃	
5	限	9時間	10時間	〃	〃	
6	限	11時間	12時間	〃	〃	
7	限	13時間	14時間	〃	〃	
8	限	15時間	16時間	〃	〃	
9	限	17時間	18時間	〃	〃	
10	限	19時間	20時間	〃	〃	
11	限	21時間	22時間	〃	〃	
12	限	23時間	24時間	〃	〃	
13	限	25時間	26時間	〃	〃	
14	限	27時間	28時間	〃	〃	
15	限	29時間	30時間	〃	〃	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ホームルームⅡ		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優汰	
科目時間数： 15 (30) 限 (時間)		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 2 年	開講時期： ☒ 前期 ・ ☒ 後期 ・ 集中	
〔授業の目的・ねらい〕 MIPsの実施による多職種連携の重要性を学び、連携方法について考える機会とする (当該科目が最も関連するDPに○) 〔ディプロマポリシーとの関連〕 ◎ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
〔授業全体の内容の概要〕 ・ MIPsを実施 〔授業における達成課題〕 ・ 多職種連携について理解する			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. ☒ 出席 4. ☒ 授業態度 5. 実技試験 6. ☒ その他 (☒ ルーブリック評価)			
【備 考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 ☒ 【内容】			

科目名 ホームルームⅡ			科目時間総数 15 (30) 限	教員名 山田 健太郎／伊藤 優汰
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	1時間 2時間	MIP s	MIPs第 1 回	
2 限	3時間 4時間	〃	〃	
3 限	5時間 6時間	〃	〃	
4 限	7時間 8時間	〃	〃	
5 限	9時間 10時間	〃	MIPs第 2 回	
6 限	11時間 12時間	〃	MIPs第 3 回	
7 限	13時間 14時間	〃	MIPs第 4 回	
8 限	15時間 16時間	〃	MIPs第 5 回	
9 限	17時間 18時間	〃	MIPs第 6 回	
10 限	19時間 20時間	〃	MIPs第 7 回	
11 限	21時間 22時間	〃	MIPs第 8 回	
12 限	23時間 24時間	〃	〃	
13 限	25時間 26時間	〃	〃	
14 限	27時間 28時間	〃	〃	
15 限	29時間 30時間	〃	〃	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 P C I		教員名 山田 健太郎	
科目時間数： 30限 1 5 時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： 必修・選択	配当学年： 1 年	開講時期： ☒ 前期 ・ ☒ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 Word・Excelの基本的な操作を習得し、練習問題を解くことによって理解度を確認し、確実に操作能力を身につける。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 ・テキストを使用し、Word・Excelの知識を深め、実務にいかせるようにする 【授業における達成課題】 ・Word・Excelの違い、特質などを理解する。 ・Word・Excelでの文章や表作り、計算方法など、情報処理の仕方を理解する。			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (課題提出)			
【備 考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無 【内容】			

科目名		P C I		科目時間総数	教員名
				30限	山田 健太郎
限数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標	
1限	1時間	2	イントロダクション	授業の目的、概要を理解する。	
2限	3時間	4	Wordの概要	Wordで何が出来るかを理解する。Excelとの違いについて理解をする	
3限	5時間	6	Wordの使い方	Wordの使い方、表示モードの理解、文章表示の変更、保存方法	
4限	7時間	8	〃	〃	
5限	9時間 10時間		〃	〃	
6限	11時間	12	Wordで文章を作成	新規作成とページ設定、日時の挿入、挨拶文の挿入、文章体制	
7限	13時間	14	〃	〃	
8限	15時間	16	〃	〃	
9限	17時間	18	Wordグラフィック機能	ワードアート、オンライン画像、オリジナル画像の挿入、文字の効果設定	
10限	19時間	20	表のある文章を作成	表の作成、レイアウト、表の書式設定	
11限	21時間	22	〃	〃	
12限	23時間	24	〃	〃	
13限	25時間	26	振り返り	理解度を問題にて確認	
14限	27時間	28	Excelの概要	Excelで何が出来るかを理解する。Wordとの違いについて理解をする	
15限	29時間	30	Excelの使い方	Excelの使い方、表示モードの理解、データ入力方法、保存方法	
16限	31時間	32	〃	〃	
17限	33時間	34	Excelで表を作成	新規作成、関数入力、表の書式設定、行や列の操作など	
18限	35時間	36	〃	〃	
19限	37時間	38	グラフ作成	グラフ機能の概要、円グラフ、縦棒グラフを作成する	
20限	39時間	40	〃	〃	
21限	41時間	42	データ分析	データベースの概要、データの並び替えや抽出、条件付書式の設定	
22限	43時間	44	〃	〃	
23限	45時間	46	〃	〃	
24限	47時間	48	アプリ間でのデータ共有	Excelの表をWordの文章に貼り付ける	
25限	49時間	50	〃	〃	
26限	51時間	52	振り返り	理解度を問題にて確認	
27限	53時間	54	課題作成	自由に発表タイトルを決め、その内容に沿ったデータを作成する	
28限	55時間	56	〃	〃	
29限	57時間	58	発表	各自、作成したものをプロジェクターを使用し発表する	
30限	59時間	60	〃	〃	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 P C II		教員名 山田 健太郎	
科目時間数： 30限 1 5 時間		授業の種類： 講義 ・ (演習) ・ 実習	
必修・選択 の 別： (必修)・選択	配当学年： 2 年	開講時期： (前期)・(後期)・集中	
【授業の目的・ねらい】 Word・Excelの操作を身につける。 PCの仕組みを理解する (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 ・テキストを使用し、Word・Excelの知識を深め、実務にいかせるようにする			
【授業における達成課題】 ・Word・Excelを用いてわかりやすい資料を作成できる。 ・Excelでの計算や情報処理ができる。			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (課題提出)			
【備 考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】			

科目名		P C Ⅱ		科目時間総数	教員名
限数		教育に含むべき事項・テーマ		30限 60時間	山田 健太郎
				主な学習内容と到達目標	
1限	1時間	2	イントロダクション	授業の目的、概要を理解する。	
2限	3時間	4	拡張子	テキストや画像, データにかかわる拡張子について理解する。	
3限	5時間	6	ショートカットキー	効率的なショートカットキーについて理解する。	
4限	7時間	8	〃	〃	
5限	9時間 10時間		振り返り	理解度を問題にて確認する。	
6限	11時間	12	数式	Excel：数式を用いた処理について学ぶ。	
7限	13時間	14	〃	〃	
8限	15時間	16	振り返り	理解度を問題にて確認する。	
9限	17時間	18	コンテンツ作成	PowerPointの機能を用いてイラストを作成する。	
10限	19時間	20	〃	〃	
11限	21時間	22	振り返り	理解度を問題にて確認する。	
12限	23時間	24	印刷	印刷の設定について理解する。	
13限	25時間	26	振り返り	理解度を問題にて確認。	
14限	27時間	28	課題作成	テーマに沿った課題をPCを用いて作成する。	
15限	29時間	30	〃	〃	
16限	31時間	32	デザインとコンテンツ	デザインの基本的な考えを身につけ、わかりやすい資料を作成できる。	
17限	33時間	34	PCについて	PCの仕組みやPC上での考え方について理解する。	
18限	35時間	36	〃	〃	
19限	37時間	38	インターネットについて	インターネットの仕組みについて理解する。	
20限	39時間	40	〃	〃	
21限	41時間	42	WEBについて	WEB上で触れることができるさまざまなコンテンツについて理解する	
22限	43時間	44	〃	〃	
23限	45時間	46	振り返り	理解度を問題にて確認する。	
24限	47時間	48	データ分析	データベースの概要、データの並び替えや抽出、分析からグラフを用いた提示について学ぶ。	
25限	49時間	50	〃	〃	
26限	51時間	52	〃	〃	
27限	53時間	54	〃	〃	
28限	55時間	56	課題作成	テーマに沿った課題をPCを用いて作成する。	
29限	57時間	58	〃	〃	
30限	59時間	60	まとめ	振り返りを行う。	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 就職研究 I		教員名 伊藤 優汰 ／山田 健太郎	
科目時間数： 8限 16時間		授業の種類： 講義・演習・実習	
必修・選択 の別： 必修・選択		配当学年： 1年	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 就職活動をスムーズに行うための企業研究、履歴書の書き方などを身につける。 働くことの意義や目的を理解する。 (当該科目が最も関連するDPに○)			
【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 求人票の見方、企業説明会参加など就職活動にむけて授業を展開する			
【授業における達成課題】 1 年次末から始まる就職活動に向けた準備ができている 2年次に向けた就職意欲の向上			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ 周辺地域 ）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）			
【備考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】			

科目名			科目時間総数	教員名
就職研究Ⅰ			8限	1 5時間 伊藤 優汰／山田 健太郎
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間 2時間	就職について	就職活動についての説明を行う	
2限	3時間 4時間	在校生・卒業生講話	2年生内定者および卒業生からの講話を実施し、就職に対する意識を作る	
3限	5時間 6時間	自己PR	自分の強みを再確認し、自己PR文を作成する	
4限	7時間 8時間	履歴書（下書き）	履歴書の下書き作成を行う	
5限	9時間 10時間	業界研究	目指す職種の業界について調べる	
6限	11時間 12時間	企業研究	目指す職種の企業について調べる	
7限	13時間 14時間	履歴書	履歴書の作成を行う	
8限	15時間 16時間	就職セミナー	就職セミナーを実施する	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 就職研究 II		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優汰	
科目時間数： 1 5 限 3 0 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： 必修・選択	配当学年： 2年	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 内定獲得に向けた就職活動を進める (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 履歴書作成、面接練習など就職活動にむけて授業を行う 【授業における達成課題】 内定をいただく。 就職活動の準備、内定に向けた取り組みができる。			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (周辺地域			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備 考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】			

科目名			科目時間総数	教員名
就職研究Ⅱ			15限	30時間 山田 健太郎／伊藤 優汰
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間2時間	履歴書作成	履歴書の作成を行う	
2限	3時間4時間	〃	〃	
3限	5時間6時間	面接練習	面接対策・練習を行う	
4限	7時間8時間	〃	〃	
5限	9時間10時間	就職活動	就職に向けた活動を行う	
6限	11時間12時間	〃	〃	
7限	13時間14時間	〃	〃	
8限	15時間16時間	〃	〃	
9限	17時間18時間	〃	〃	
	19時間20時間	〃	〃	
11限	21時間22時間	〃	〃	
	23時間24時間	〃	〃	
13限	25時間26時間	〃	〃	
	27時間28時間	〃	〃	
15限	29時間30時間	〃	〃	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名		ビジネス実務 I		教員名		吉田 あかり	
科目時間数 :		60時間 30限		授業の種類 :		講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別 :		必修・選択		担当学年 :		1年次	
				開講時期 :		前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 社会人として職場に必要なビジネスマナーの基礎知識・技術の習得を目指す。 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 幼児期から高齢者を対象とした生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 2) プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動される感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。 【授業全体の内容の概要】 ビジネスマナーを習得するために必要な知識については主に講義形式で行うが、ロールプレイングやケーススタディを中心に、学生自身が主体的な参加が必須となる実践的な演習を行い、社会人としての言葉遣い、電話・来客対応の基本を学ぶ。 【授業における達成課題】 社会人に必要な基礎的ビジネスマナーを身につけ、学習した知識・技術を実践することができる。							
		使用教材		出版社			
学生用		さすが！と言われる ビジネスマナー完全版		高橋書店			
		夢実現のための実践行動学		実践行動学研究所			
教員参考用		プリント					
【使用教室】							
1. HR		2. 介護実習室		3. 家政実習室		4. 視聴覚室	
5. PC実習室		6. 接遇実習室		7. その他 ()			
【評価方法】							
1. 筆記試験		2. レポート		3. 出席		4. 授業態度	
5. 実技試験		6. その他 ()					
【備 考】							
1. 筆記試験は60点以上を合格とする							
4. 授業態度はルーブリック評価を参考とする							
【担当教員の実務経験の有無】 有 無							
【内 容】 職業訓練校等にてビジネスマナー講師としての実務経験あり							

科目名			科目時間総数	教員名
ビジネス実務 I			60時間 30限	吉田 あかり
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間2時間	オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する	
2限	3時間4時間	ファーストイメージUP術	第一印象の大切さを理解し、身だしなみの基本を実践する	
3限	5時間6時間	〃	〃 表情の重要性を理解する	
4限	7時間8時間	社内業務&マナー	仕事の基本を理解する 挨拶・お辞儀の仕方も基本を習得し、実践する	
5限	9時間10時間	〃	始業前の準備・終業前の心得を理解する 報告・連絡・相談の基本を習得し、実践できる	
6限	11時間12時間	〃	わかりやすい依頼のしかたを習得し、実践する スケジュールのつくり方・整理整頓の基本を実践する	
7限	13時間14時間	会話術	ビジネス会話と敬語の基本を習得する	
8限	15時間16時間	〃	〃	
9限	17時間18時間	〃	敬語の基本を実践する	
10限	19時間20時間	〃	電話の受け方・かけ方の基本を実践する	
11限	21時間22時間	〃	電話の受け方・かけ方の基本を実践する 電話の取次ぎ・伝言を実践する	
12限	23時間24時間	対顧客マニュアル	来客対応の基本を習得し、実践する	
13限	25時間26時間	〃	来客対応の基本を習得し、実践する ビジネス訪問の基本を習得し、実践する	
14限	27時間28時間	〃	ビジネス訪問の基本を習得し、実践する 名刺の取り扱い方を実践できる	
15限	29時間30時間	ビジネス文書作成法	文書ツールの特性を理解し、文書作成の基本を習得する	
16限	31時間32時間	〃	社外文書作成の基本を習得し、実践できる	
17限	33時間34時間	〃	社内文書作成の基本を習得し、実践できる	
18限	35時間36時間	冠婚葬祭（ビジネス版）	ビジネスにおける冠婚葬祭の基本を習得し、実践する	
19限	37時間38時間	〃	〃	
20限	39時間40時間	総まとめ	学習理解度確認テスト・解説	
21限	41時間42時間	夢実現のための実践行動学（Part 1）	意欲的な心構え 導入・アイスブレイク 夢と目標	
22限	43時間44時間	〃	誤った思い込みと言い訳	
23限	45時間46時間	〃	行動のよりどころと心構え	
24限	47時間48時間	〃	まず第一歩を（言い訳について）	
25限	49時間50時間	〃	目標を設定しよう	
26限	51時間52時間	夢実現のための実践行動学（Part 2）	自分の可能性を広げよう プラス思考・自分をほめる	
27限	53時間54時間	〃	考え方を変えれば行動が変わる	
28限	55時間56時間	〃	あなたの問題はあなたが解決できる	
29限	57時間58時間	〃	コミュニケーションスタイルを見直そう	
30限	59時間60時間	〃	目標が才能・可能性を開花させる	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ビジネス実務Ⅱ		教員名 吉田 あかり	
科目時間数： 60時間 30限		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修・選択	配当学年： 2年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 組織において仕事をする為のあり方及び対人関係のあり方とその基本的な言動としてのビジネスマナーの基本を理解し、総合的に実践できる。 【ディプロマポリシーとの関連】 1. 幼児期から高齢者を対象とした生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 2) プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動される感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。 【授業全体の内容の概要】 社会人となったとき、適切な考え方を持って対人関係を円滑にする行動ができるよう、社会人としての言葉遣い、電話応対、来客対応の基本等を学ぶ。 夢実現に向けて、主体的・積極的な行動が出来る。 【授業における達成課題】 社会人として求められる心構えを身につけ、社会人としてのビジネスマナーの基本とサービスマインドを学び、その技術を総合的に実践することができる。 夢実現に向けての意欲的な心構えを身につけ、自分の可能性を広げる考え方と行動ができる。			
	使用教材	出版社	
学生用	サービス接遇検定3級受験ガイド 同 問題集 夢実現のための実践行動学	早稲田教育出版 同上 実践行動学研究所	
教員参考用			
【使用教室】			
1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】			
1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備 考】			
1. 筆記試験は60点以上を合格とする 4. 授業態度はルーブリック評価を参考とする			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ☒ 無			
【内 容】 職業訓練校等にてビジネスマナー講師としての実務経験あり			

科目名			科目時間総数	教員名
ビジネス実務Ⅱ			60時間	吉田 あかり
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間	2オリエンテーション	授業の位置づけについて理解する	
2限	3時間	4サービスマインドを持った接遇	スタッフの資質（必要要件、従業要件）を理解する	
3限	5時間	6〃	〃	
4限	7時間	8〃	専門知識（サービス知識、従業知識）を理解する	
5限	9時間	〃	〃	
6限	11時間	12〃	対人技能（人間関係、接遇知識、話し方）実践する	
7限	13時間	14〃	〃	
8限	15時間	16〃	実務技能（問題処理、環境整備、金品管理）を理解する	
9限	17時間	18〃	〃	
10限	19時間	20総合実践	電話応対の基本を実践する	
11限	21時間	22〃	〃	
12限	23時間	24〃	〃	
13限	25時間	26〃	来客応対の基本を実践する	
14限	27時間	28〃	〃	
15限	29時間	30〃	〃	
16限	31時間	32〃	社会人としての心構えを習得する	
17限	33時間	34〃	面接成功のポイントを理解する	
18限	35時間	36〃	〃	
19限	37時間	38〃	面接時の立ち居振る舞いを実践する	
20限	39時間	40〃	〃	
21限	41時間	42夢実現のための実践行動学（Part 3）	社会へ出る準備を始めよう 入学から今日までの成長を実感しよう	
22限	43時間	44〃	働く自分をイメージしてみよう	
23限	45時間	46〃	自分で自分の人生を切り開く	
24限	47時間	48〃	将来を描いてみよう	
25限	49時間	50〃	夢実現への第一歩を踏み出そう	
26限	51時間	52プレゼンテーション準備・作成	ビジネス実務で学び、習得したことをアウトプットする	
27限	53時間	54〃	〃	
28限	55時間	56〃	〃	
29限	57時間	58プレゼンテーション	発表とフィードバック	
30限	59時間	60〃	〃	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 英語講座 I		教員名 川村 繭子	
科目時間数: 15 (30) 限 (時間)		授業の種類: 講義・演習・実習	
必修・選択 の別:	必修・選択	配当学年: 1学年	開講時期: 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 英語を主体とするコミュニケーション能力を身につける (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 自分の事を英語で表現できるようになる。 英語でコミュニケーションをとりながら、クラスメートを知り、より発話しやすい環境をつくる。 簡単な英単語がとっさに言える瞬発力を高める。 色々な場面での英会話表現を知り、実際に発話できるように導く。 【授業における達成課題】 - 積極的に英語でコミュニケーションをとる意欲を育て、わからないことを抵抗なく質問したり、考えたり、答えたり、反応したりする事ができるようになる。 - 場面に応じた英会話表現をとっさに発話できるようになる。			
	使用教材	出版社	
学生用	Passport 1 second edition	Oxford Press	
教師参考用	Passport 1 Teacher's guide Passport 1 workbook クイズチャンツ	mpi 松香フォニックス出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 無 【内 容】 英会話教室での講師経験			

科目	科目名	科目時間総数	教員名
	英語講座Ⅰ	15限 30時間	川村 繭子
限数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1	限	1時間 2時間	英語で自己紹介する
		3時間 4時間	英語でクラスメートの紹介をする
2	限	5時間 6時間	テキストの登場人物について知る(グループ毎) Jigsaw Reading 1
		7時間 8時間	テキストの登場人物について知る(グループ交差) Jigsaw Reading 2
3	限	9時間 10時間	How do you say _____ in English? の表現 にとっさに答える
		11時間 12時間	Unit 1: Would you like chicken or fish?
4	限	13時間 14時間	Unit 1: Would you like chicken or fish?
		15時間 16時間	Unit 1: Would you like chicken or fish? グループ発表
5	限	17時間 18時間	What's color is _____? の表現 にとっさに答える
		19時間 20時間	Unit 2: Can I have your passport, please?
6	限	21時間 22時間	Unit 2: Can I have your passport, please?
		23時間 24時間	Unit 2: Can I have your passport, please? グループ発表
7	限	25時間 26時間	In which month is _____? の表現 にとっさに答える
		27時間 28時間	Unit 3: My mother has her own business.
8	限	29時間 30時間	Unit 3: My mother has her own business.
		31時間 32時間	Unit 3: My mother has her own business. 個人発表
9	限	33時間 34時間	How many _____ are there in _____? の表現 にとっさに答える
		35時間 36時間	Unit 5: Are you ready to order?
10	限	37時間 38時間	Unit 5: Are you ready to order?
		39時間 40時間	Unit 5: Are you ready to order? グループ発表
11	限	41時間 42時間	Unit 6: Where's the station?
		43時間 44時間	Unit 6: Where's the station?
12	限	45時間 46時間	Unit 6: Where's the station? ペア発表
		47時間 48時間	Unit 9: I have a stomachache.
13	限	49時間 50時間	Unit 9: I have a stomachache.
		51時間 52時間	Unit 9: I have a stomachache.
14	限	53時間 54時間	確認テスト
		55時間 56時間	ふりかえり
15	限	57時間 58時間	テスト振り返り
		59時間 60時間	ミニワークショップ

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 英語講座Ⅱ		教員名 川村 繭子	
科目時間数: 15 (30) 限 (時間)		授業の種類: 講義・演習・実習	
必修・選択の別: 必修・選択		配当学年: 2学年	開講時期: 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 英語を主体とするコミュニケーション能力を身につける (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 日本を紹介する(もてなす)簡単な英単語、英会話がとっさに言える瞬発力を高める。 色々な場面での英会話表現を知り、実際に発話できるように導く。 英語での面接試験、職場での英語の使用に役立つような表現を知る。			
【授業における達成課題】 ・積極的に英語でコミュニケーションをとる姿勢を学ぶ。 ・場面に応じた英会話表現をとっさに発話できるスキルを習得する。 ・習得した英語スキルを活かし、就職活動や、就職、社会に出た後に使用できるビジョンを構想できるようになる。 ・MCLでの2年間やこれからの生活について、自分の言葉で表現する。			
	使用教材	出版社	
学生用	Passport Plus	Oxford Press	
教師参考用	Passport Plus Teacher's guide	Oxford Press	
	Passport Plus workbook	Oxford Press	
	おもてなしチャンツ	mpi 松香フォニックス出版	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 無			
【内容】 英会話教室での講師経験			

科目名			英語講座Ⅱ	科目時間総数	30時間	教員名	川村 繭子
			教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標			
1	限	1時間 2時間	既習ユニットの復習	オリエンテーションワークショップ			
		3時間 4時間		既習ユニットの復習			
2	限	5時間 6時間	簡単な英会話表現	Welcome to Japan! に関連した表現 を英語でとっさに言う			
		7時間 8時間		Unit 11: What time does it start?			
3	限	9時間 10時間	自ら質問する	Unit 11: What time does it start?			
		11時間 12時間		Unit 11: What time does it start?			
4	限	13時間 14時間	簡単な英会話表現	Just One Word ! 英語でとっさの一言を言う			
		15時間 16時間		Unit 13: I really like rugby.			
5	限	17時間 18時間	趣味について語る	Unit 13: I really like rugby.			
		19時間 20時間		Unit 13: I really like rugby.			
6	限	21時間 22時間	簡単な英会話表現	Asking Questions 英語でとっさに質問する			
		23時間 24時間		Unit17: We're staying five more days.			
7	限	25時間 26時間	残りの日々について語る	Unit17: We're staying five more days.			
		27時間 28時間		Unit17: We're staying five more days.			
8	限	29時間 30時間	簡単な英会話表現	Breakfast, Lunch, and Dinner の際に英語表現 をとっさに言う			
		31時間 32時間		Unit 20: What did you like the best?			
9	限	33時間 34時間	思い出を語る	Unit 20: What did you like the best?			
		35時間 36時間		Unit 20: What did you like the best?			
10	限	37時間 38時間	まとめ	確認テスト			
		39時間 40時間		ふりかえり			
11	限	41時間 42時間	最終スピーチ準備	確認テスト振り返り			
		43時間 44時間		最終スピーチのテーマ(卒業、就職活動、研究テーマ、新生活など)			
12	限	45時間 46時間	最終スピーチ準備	最終スピーチの準備(提出→添削)			
		47時間 48時間					
13	限	49時間 50時間	最終スピーチ準備	最終スピーチの準備(プレゼン資料づくりpowerpoint など)			
		51時間 52時間					
14	限	53時間 54時間	まとめ	最終スピーチ発表			
		55時間 56時間		ふりかえり			
15	限	57時間 58時間	まとめ	最終スピーチ発表			
		59時間 60時間		ふりかえり			

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 資格検定対策講座Ⅰ (簿記)		教員名 佐々木 謙蔵	
科目時間数: 30限 60時間		授業の種類: 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別:	必修・選択	配当学年: 1年	開講時期: 前期・後期・集中
〔授業の目的・ねらい〕 企業での活動を適切かつ効率的に行うための簿記の知識・技術を身につける。 (当該科目が最も関連するDPに○) 〔ディプロマポリシーとの関連〕 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
〔授業全体の内容の概要〕 簿記の基礎・取引の記帳から決算・帳簿と3伝票制など、簿記の記帳手続きの流れや会計処理の方法を適切に処理できる能力を養う。 〔授業における達成課題〕 全経簿記3級の合格			
	使用教材	出版社	
	全経簿記能力検定試験3級 問題集 全経簿記能力検定試験3級 テキスト	ネットスクール出版 〃	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】教育機関での職務経験あり			

科目名			科目時間総数	教員名
資格検定対策講座Ⅰ（簿記）			30限	佐々木 謙蔵
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間 2時間	帳簿の基礎	帳簿の基礎	
2限	3時間 4時間	〃		
3限	5時間 6時間	仕訳と転記	仕訳と転記/勘定と転記/仕訳帳と総勘定元帳	
4限	7時間 8時間	〃		
5限	9時間 10時間	決算の手続き	決算とは/試算表の作成	
6限	11時間 12時間	〃		
7限	13時間 14時間	〃		
8限	15時間 16時間	〃		
9限	17時間 18時間	現金と当座預金	原器・当座預金	
10限	19時間 20時間	〃		
11限	21時間 22時間	商品売買	3分法/掛取引・返品/商品売買に関する帳簿/売上原価対立法	
12限	23時間 24時間	その他の費用と収益	費用の支払い/収益の受け取り	
13限	25時間 26時間	〃		
14限	27時間 28時間	手形	約束手形/手形貸付金と手形借入金	
15限	29時間 30時間	その他の債権債務	未収金・未払金/前払金・前受金/仮払金・前受金/立替金・預り金	
16限	31時間 32時間	〃		
17限	33時間 34時間	現金過不足金・小口現金	過不足金/小口現金	
18限	35時間 36時間	税金・引出金	消費税の処理/引出金と税金	
19限	37時間 38時間	有権証券と固有固定資産	有権証券/固有固定資産	
20限	39時間 40時間	株式の発行	株式会社の資本構成/株式の発行	
21限	41時間 42時間	決算の手続き	決算整理事項/売上原価の計算/貸倒れの見積もり/消耗品費の処理/費用の繰延/費用の見通し	
22限	43時間 44時間	〃		
23限	45時間 46時間	〃		
24限	47時間 48時間	清算表・財務諸表	清算表/損益計算表と貸借対照表/帳簿の締切	
25限	49時間 50時間	〃		
26限	51時間 52時間	伝票会計・試算表	3伝票制/試算表作成問題の解き方	
27限	53時間 54時間	〃		
28限	55時間 56時間	過去問題		
29限	57時間 58時間	〃		
30限	59時間 60時間	〃		

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 資格検定対策講座Ⅱ		教員名 伊藤 優汰	
科目時間数： 30限 60時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 2年	開講時期： ☒ 前期 ・ ☒ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 リテールマーケティング検定3級の合格を目指す 商品を扱う際に必要な知識について理解する (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 テキストを中心に、検定対策を行う 【授業における達成課題】 リテールマーケティング検定3級の取得			
	使用教材	出版社	
	リテールマーケティング検定3級 テキスト	成美堂出版	
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. ☒ 出席 4. ☒ 授業態度 5. 実技試験 6. ☒ その他 (検定結果)			
【備考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無 【内容】教育機関での職務経験あり			

科目名			科目時間総数	教員名
資格検定対策講座Ⅱ			30限	60時間 伊藤 優汰
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間2時間	オリエンテーション	授業の目的、資格試験概要を理解する。	
2限	3時間4時間	小売業とは	生産者から消費者への物流の流れを学ぶ	
3限	5時間6時間	〃	フランチャイズについて学ぶ	
4限	7時間8時間	〃	販売形態について学ぶ	
5限	9時間10時間	〃	店舗形態について学ぶ	
6限	11時間12時間	〃	〃	
7限	13時間14時間	〃	〃	
8限	15時間16時間	〃	〃	
9限	17時間18時間	マーチャンダイジング	商品について学ぶ	
10限	19時間20時間	〃	店舗別の商品計画について学ぶ	
11限	21時間22時間	〃	ディスプレイについて学ぶ	
12限	23時間24時間	〃	価格設定について学ぶ	
13限	25時間26時間	〃	販売・在庫管理について学ぶ	
14限	27時間28時間	ストアオペレーション	開店準備について学ぶ	
15限	29時間30時間	〃	発注について学ぶ	
16限	31時間32時間	〃	包装について学ぶ	
17限	33時間34時間	〃	ディスプレイ器具について学ぶ	
18限	35時間36時間	確認	問題に取り組み、理解度を確認する	
19限	37時間38時間	マーケティング	マーケティングの基本について学ぶ	
20限	39時間40時間	〃	顧客維持について学ぶ	
21限	41時間42時間	〃	プロモーションについて学ぶ	
22限	43時間44時間	〃	売り場づくりについて学ぶ	
23限	45時間46時間	〃	照明について学ぶ	
24限	47時間48時間	販売・経営管理	マナー・接客について学ぶ	
25限	49時間50時間	〃	法令について学ぶ	
26限	51時間52時間	〃	経営管理について学ぶ	
27限	53時間54時間	検定対策	検定受験に向けた対策を行う	
28限	55時間56時間	〃	〃	
29限	57時間58時間	〃	〃	
30限	59時間60時間	まとめ	振り返りを行う	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生涯スポーツ演習 I		教員名 伊藤 優太 ／山田 健太郎	
科目時間数： 25限 50時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年： 1年	開講時期： ☒ 前期 ☒ 後期 ☐ 集中	
【授業の目的・ねらい】 様々なスポーツやボランティア活動を経験し、様々な対象への指導や、福祉の考え方を理解する (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☐ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 いわて銀河ウルトラマラソン、いわて盛岡シティマラソンなどのスポーツイベントでのボランティア参加 【授業における達成課題】 様々な年齢層への安全で正しい指導ができる 福祉分野の学校としての心の構えを理解できる			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (各施設、体育館)			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (ルーブリック評価)			
【備考】 評価について：出席率及び報告書の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】			

科目名			科目時間総数	教員名
生涯スポーツ演習Ⅰ			25限	50時間 山田 健太郎／伊藤 優太
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間 2時間	オリエンテーション	授業の進行の流れについて理解する	
2限	3時間 4時間	活動参加	MCLクリーンアップ作戦 参加	
3限	5時間 6時間	〃	〃	
4限	7時間 8時間	〃	いわて銀河ウルトラマラソン 参加	
5限	9時間 10時間	〃	〃	
6限	11時間 12時間	〃	〃	
7限	13時間 14時間	〃	〃	
8限	15時間 16時間	〃	〃	
9限	17時間 18時間	〃	盛岡市スポーツ協会 こどもスポーツ教室 参加	
10限	19時間 20時間	〃	〃	
11限	21時間 22時間	〃	〃	
12限	23時間 24時間	〃	盛岡シティマラソン 参加	
13限	25時間 26時間	〃	〃	
14限	27時間 28時間	〃	〃	
15限	29時間 30時間	〃	〃	
16限	31時間 32時間	〃	盛岡市スポーツ協会 こどもスポーツ教室 参加	
17限	33時間 34時間	〃	〃	
18限	35時間 36時間	〃	〃	
19限	37時間 38時間	〃	ボランティア活動への参加	
20限	39時間 40時間	〃	〃	
21限	41時間 42時間	〃	〃	
22限	43時間 44時間	〃	〃	
23限	45時間 46時間	〃	〃	
24限	47時間 48時間	〃	〃	
25限	49時間 50時間	まとめ	振り返りを行う	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 生涯スポーツ演習Ⅱ		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優太	
科目時間数： 25限 50時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年： 2年	開講時期： ☒ 前期 ☒ 後期 ☐ 集中	
【授業の目的・ねらい】 様々なスポーツやボランティア活動を経験し、様々な対象への指導や、福祉の考え方を理解する (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 いわて銀河ウルトラマラソン、いわて盛岡シティマラソンなどのスポーツイベントでのボランティア参加			
【授業における達成課題】 様々な年齢層への安全で正しい指導ができる 福祉分野の学校としての心の構えを理解できる			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (各施設、体育館)			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (ルーブリック評価)			
【備考】 評価について：出席率及び報告書の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】			

科目名			科目時間総数	教員名
生涯スポーツ演習Ⅱ			25限	50時間 山田 健太郎／伊藤 優太
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間 2時間	オリエンテーション	授業の進行の流れについて理解する	
2限	3時間 4時間	活動参加	MCLクリーンアップ作戦 参加	
3限	5時間 6時間	〃	〃	
4限	7時間 8時間	〃	いわて銀河ウルトラマラソン 参加	
5限	9時間 10時間	〃	〃	
6限	11時間 12時間	〃	〃	
7限	13時間 14時間	〃	〃	
8限	15時間 16時間	〃	〃	
9限	17時間 18時間	〃	盛岡市スポーツ協会 こどもスポーツ教室 参加	
10限	19時間 20時間	〃	〃	
11限	21時間 22時間	〃	〃	
12限	23時間 24時間	〃	盛岡シティマラソン 参加	
13限	25時間 26時間	〃	〃	
14限	27時間 28時間	〃	〃	
15限	29時間 30時間	〃	〃	
16限	31時間 32時間	〃	盛岡市スポーツ協会 こどもスポーツ教室 参加	
17限	33時間 34時間	〃	〃	
18限	35時間 36時間	〃	〃	
19限	37時間 38時間	〃	ボランティア活動への参加	
20限	39時間 40時間	〃	〃	
21限	41時間 42時間	〃	〃	
22限	43時間 44時間	〃	〃	
23限	45時間 46時間	〃	〃	
24限	47時間 48時間	〃	〃	
25限	49時間 50時間	まとめ	振り返りを行う	

授業計画表

スポーツ健康学科 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ概論		教員名 中井 大輔	
科目時間数： 30限 60時間		授業の種類：講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 1年次	開講時期：前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ＜バイオメカニクス＞ 「物体（人体）の動きを定量的、また定性的に分析すること」、また、「その際に、活用する基本的な物理演算方法を理解すること」を学ぶ。 ＜スポーツ生理学＞ 様々な運動様式に対する生理学的反応を理解すること、また推測できるようになること。□ （当該科目が最も関連するDPに○） 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 ＜バイオメカニクス＞ バイオメカニクスの基礎理論（運動学・運動力学）を学ぶ。物体（人体）の動きを理解するのに必要となる物理的法則を取り扱う。 ＜スポーツ生理学＞ スポーツ生理学の基礎理論を学ぶ。主に、運動・スポーツによって呼吸循環器系・骨格筋系の生理機能がどのように反応していくのかを取り扱う。			
【授業における達成課題】 ＜バイオメカニクス＞ 物体（人体）の動作を定量的に評価できるようになること。物理演算方法を活用して、動作を数値化できるようになること。 ＜スポーツ生理学＞ 身体の生理学的反応を理解し、それをもとにより効果的な運動様式を選択、また、指導ができる能力を身につける。			
【使用教材・テキスト等】 トレーニング指導者テキスト〔理論編〕（NP0法人 日本トレーニング指導者協会 編著）			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 レポート（10％）、小テスト（全4回）（30％）、期末試験（60％）の内容で評価を行う。			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 高校スポーツチームへのトレーニング指導、一般に向けてのパーソナルトレーニング			

科目名		科目時間総数	教員名
スポーツ概論		30限 60時間	中井 大輔
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 1 2	イントロダクション	<バイオメカニクス> バイオメカニクスとは? 体の動きを表す用語 <スポーツ生理学> 内部環境の恒常性/内部環境の定常状態	
2 3 4	<バイオメカニクス>運動の記述 <スポーツ生理学>呼吸循環系と運動	<バイオメカニクス> 基本単位・スカラー量とベクトル量 <スポーツ生理学> 呼吸循環系の基礎的情報	
3 5 6	<バイオメカニクス>運動の記述 <スポーツ生理学>呼吸循環系と運動	<バイオメカニクス> 運動学 <スポーツ生理学>運動と呼吸循環系/トレーニングと呼吸循環系	
4 7 8	<バイオメカニクス>運動の記述 <スポーツ生理学>エネルギー代謝と運動	<バイオメカニクス> 投射体の運動学 <スポーツ生理学> エネルギー代謝の基礎的情報	
5 9 10	<バイオメカニクス>運動の分析 <スポーツ生理学>エネルギー代謝と運動	<バイオメカニクス> 運動力学 <スポーツ生理学> 運動とエネルギー代謝	
6 11 12	<バイオメカニクス>運動の分析 <スポーツ生理学>エネルギー代謝と運動	<バイオメカニクス> ニュートンの運動法則 <スポーツ生理学> トレーニングとエネルギー代謝	
7 13 14	<バイオメカニクス>運動の分析 <スポーツ生理学>骨格筋と運動	<バイオメカニクス> 力とトルク、その他の物理量 <スポーツ生理学> 骨格筋の形態と機能	
8 15 16	<バイオメカニクス>スポーツ動作 <スポーツ生理学> 骨格筋と運動	<バイオメカニクス> 運動動作の考察 <スポーツ生理学> 筋力発揮のメカニズム	
9 17 18	<バイオメカニクス>スポーツ動作 <スポーツ生理学>神経系と運動	<バイオメカニクス> 運動動作の考察 <スポーツ生理学> 神経系に対するトレーニング効果	
10 19 20	<バイオメカニクス>スポーツ動作 <スポーツ生理学>内分泌系と運動	<バイオメカニクス> 運動動作の考察 <スポーツ生理学> 神経系に対するトレーニング効果	
11 21 22	<バイオメカニクス>スポーツ動作 <スポーツ生理学>神経系と運動	<バイオメカニクス> 運動動作の考察 <スポーツ生理学> 主な内分泌器官とホルモン	
12 23 24	<バイオメカニクス>スポーツ動作 <スポーツ生理学>神経系と運動	<バイオメカニクス> 運動動作の考察 <スポーツ生理学> 身体機能へのホルモンの作用	
13 25 26	<バイオメカニクス>スポーツ動作 <スポーツ生理学>神経系と運動	<バイオメカニクス> トレーニング動作の考察 <スポーツ生理学> 筋肥大におけるホルモンの役割 レジスタンストレーニングとホルモン分泌	
14 27 28	振り返り	各項目の振り返り	
15 29 30	前期末考査	前期末試験を行う	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16 31 32	<測定と評価>	<トレーニング効果の測定と評価>
17 33 34	<測定と評価>	<トレーニング効果の測定と実際>
18 35 36	<測定と評価>	<測定データの分析とデータの活用>
19 37 38	<測定と評価>	<散布度、変動係数、正規分布、偏差> <相関と回帰>
20 39 40	<測定と評価>	<推計統計>
21 41 42	<測定と評価>	<順位・得点化>
22 43 44	<測定と評価>	<データ分析の実際>
23 45 46	<測定と評価>	<データ分析の実際>
24 47 48	試験対策	試験対策を行う
25 49 50	試験対策	試験対策を行う
26 51 52	試験対策	試験対策を行う
27 53 54	試験対策	試験対策を行う
28 55 56	試験対策	試験対策を行う
29 57 58	後期末考査	後期末試験を行う
30 59 60	まとめ	まとめを行う

授業計画表

スポーツ健康学科 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ概論		教員名 中軽米 敬太	
科目時間数： 30 限 60 時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 1 年次	開講時期： ☒ 前期 ・ ☒ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 運動指導に関わる際に必要となる基本的な知識について身につける。			
【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) ☒ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☒ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 JATIテキストを中心に、「体力学」「運動と心理」「トレーニング指導者の役割」「対象別のトレーニング」について座学形式で授業を進める。			
【授業における達成課題】 体力の概念やトレーニング指導者の役割について理解する。 対象別の心理的サポートやトレーニング指導について理解する。 JATI-ATIの取得。			
【使用教材・テキスト等】 JATIトレーニング指導者テキスト（理論編、実践編）			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（ ）			
【評価方法】 出席、授業態度、試験結果からA（80以上）、B（79～70）、C（69～60）、D（59以下）の4段階で評価する。			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 トレーニング指導者としての活動			

科目名		科目時間総数	教員名
スポーツ概論		30限 60時間	中軽米 敬太
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 1 2	トレーニング指導者論	トレーニング指導者の役割について学ぶ	
2 3 4	トレーニング指導者論	トレーニング指導者の実務について学ぶ	
3 5 6	体力トレーニング総論	体力の概念について理解する。	
4 7 8	体力トレーニング総論	競技ごとの体力特性や、トレーニングにおける体力の変化について学ぶ。	
5 9 10	体力トレーニング総論	対象別のトレーニングの実際について学ぶ	
6 11 12	運動と心理	運動と心理のかかわりについて学ぶ	
7 13 14	運動と心理	状況別の心理的サポートが必要な事例について学ぶ	
8 15 16	運動と心理	運動と学習について学ぶ	
9 17 18	運動と心理	運動と指導方法について学ぶ	
10 19 20	まとめ	体力トレーニング総論、運動と心理、トレーニング指導者論のまとめと確認を行う	
11 21 22	対象別のトレーニング	障がいを抱えた方へのトレーニングについて学ぶ	
12 23 24	対象別のトレーニング	年代別のトレーニングについて学ぶ	
13 25 26	対象別のトレーニング	女性に対するトレーニングについて学ぶ	
14 27 28	対象別のトレーニング	特別な対象へのトレーニングについてのまとめと確認を行う	
15 29 30	対象別のトレーニング	生活週案病患者へのトレーニングについて学ぶ	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16 31 32	対象別のトレーニング	リハビリテーションの実際について学ぶ
17 33 34	対象別のトレーニング	アスレティックリハビリテーションの実際について学ぶ
18 35 36	対象別のトレーニング	疾病や傷害を抱えた対象へのトレーニングについてのまとめと確認を行う
19 37 38	まとめ	対象別のトレーニングについてのまとめと確認を行う
20 39 40	試験対策	体力学に関する振り返りと対策を行う
21 41 42	試験対策	指導者の役割と業務に関する振り返りと対策を行う
22 43 44	試験対策	運動と心理に関する振り返りと対策を行う
23 45 46	試験対策	特別な対象へのトレーニングに関する振り返りと対策を行う
24 47 48	試験対策	疾病や傷害を抱えた対象へのトレーニングに関する振り返りと対策を行う
25 49 50	まとめ	試験の振り返りを行う
26 51 52	トレーニングの実際	高齢者へのトレーニング指導の実際について学ぶ
27 53 54	トレーニングの実際	こどもやジュニアアスリートへのトレーニング指導の実際について学ぶ
28 55 56	トレーニングの実際	アスレティックリハビリテーションの実際について学ぶ
29 57 58	トレーニングの実際	生活週案病患者へのトレーニング指導の実際について学ぶ
30 59 60	まとめ	これまでの学習内容のまとめを行う

授業計画表

スポーツ健康学科 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ概論		教員名 田村 健登	
科目時間数：30限 60時間		授業の種類：講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修・選択	配当学年：1年次	開講時期： ☒ 前期・ ☒ 後期・集中	
〔授業の目的・ねらい〕 JATI-ATUの取得に向け、トレーニング指導に必要なとなる知識を身につける。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 〔ディプロマポリシーとの関連〕 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
〔授業全体の内容の概要〕 栄養学、トレーニング理論について座学を中心に学ぶ。			
〔授業における達成課題〕 栄養に関する知識の修得。 トレーニングに関する知識の修得。			
〔使用教材・テキスト等〕 JATIトレーニング指導者テキスト（理論編、実践編）			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. ☒ その他（ トレーニング室 ）			
【評価方法】 出席率・授業態度・課題提出から、A（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 フィットネスクラブでの勤務、スポーツトレーナーとしての活動			

科目名		科目時間総数	教員名
スポーツ概論		30限 60時間	田村 健登
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 1 2	オリエンテーション	授業の進め方や評価方法について理解する	
2 3 4	運動と栄養	栄養の役割について理解する	
3 5 6	運動と栄養	エネルギー消費について理解する	
4 7 8	運動と栄養	水分補給、サプリメントの摂取について理解する	
5 9 10	運動と栄養	まとめ、確認を行う	
6 11 12	運動と栄養	アスリートへの食事指導について理解する	
7 13 14	運動と栄養	減量・増量時の食事指導について理解する	
8 15 16	運動と栄養	対象別の食事指導について理解する	
9 17 18	運動と栄養	状況別の食事指導について理解する	
10 19 20	運動と栄養	まとめ、確認を行う	
11 21 22	トレーニング計画とプログラム	トレーニングがパフォーマンスや日常生活に与える効果について理解する。また、トレーニングの原理・原則について理解する。	
12 23 24	トレーニング計画とプログラム	トレーニング計画の立案および運用、ピリオダイゼーションについて理解する。	
13 25 26	トレーニング計画とプログラム	レジスタンストレーニングの目的について理解する。	
14 27 28	トレーニング計画とプログラム	レジスタンストレーニングのトレーニング計画について理解する。	
15 29 30	トレーニング計画とプログラム	パワーの関係や評価方法について理解する。	

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16 31 32	トレーニング計画とプログラム	パワートレーニングのトレーニング計画について理解する。
17 33 34	トレーニング計画とプログラム	持久力に関する理論や適応について理解する。
18 35 36	トレーニング計画とプログラム	持久力トレーニングのトレーニング計画について理解する。
19 37 38	トレーニング計画とプログラム	スピードやアジリティの種類や評価方法について理解する。
20 39 40	トレーニング計画とプログラム	スピードトレーニングのトレーニング計画について理解する。
21 41 42	トレーニング計画とプログラム	柔軟性向上トレーニングのトレーニング計画について理解する。
22 43 44	トレーニング計画とプログラム	ウォームアップやクールダウン、リカバリーの計画について理解する。
23 45 46	試験対策	試験に向けた対策を行う
24 47 48	試験対策	試験に向けた対策を行う
25 49 50	試験対策	試験に向けた対策を行う
26 51 52	試験対策	試験に向けた対策を行う
27 53 54	ふりかえり	試験の振り返りを行う
28 55 56	まとめ	栄養や食事指導に関するまとめ、確認を行う
29 57 58	まとめ	トレーニング計画に関するまとめ、計画を行う
30 59 60	ふりかえり	授業のふりかえり、まとめを行う

授業計画表

スポーツ健康学科 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 専門科目演習 I		教員名 山本 梨奈	
科目時間数： 30限 (60時間)		授業の種類： <u>講義</u> ・ <u>演習</u> ・ 実習	
必修・選択 の 別：	<u>必修</u> ・選択	配当学年： 年次	開講時期： <u>前期・後期・集中</u>
【授業の目的・ねらい】 身体構造について理解し、現場において、クライアントの目的・目標に対する的確な運動指導・説明・処置を行えるようにするための知識・技能を有する能力を身につける為に学習する。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 トレーニング指導者が現場において身につけておかなければならない必要事項を学ぶ（機能解剖、スポーツ医学、テーピングなど）			
【授業における達成課題】 ・身体機能の基礎知識について理解し実践することができる。 ・救急処置法や傷害予防、テーピングの基礎知識を学び、実践することができる。			
【使用教材・テキスト等】 トレーニング指導者テキスト【理論編】（大修館書店）			
【使用教室】 ①. <u>HR</u> 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 <u>7. その他</u> （ スタジオ ）			
【評価方法】 出席、レポート、授業態度、筆記試験、実技試験の結果から評価する。			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無 【内 容】 鍼灸師として整形外科にて勤務。部活動でのトレーナー経験あり。			

科目名		科目時間総数	教員名
専門科目演習Ⅰ		30限 (60時間)	山本 梨奈
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1	1 オリエンテーション	授業の位置付けについて理解する	
		〃	
2	3 解剖学	身体構造の基礎について学ぶ	
		〃	
3	5 解剖学	身体構造の基礎について理解する	
		〃	
4	7 解剖学	身体構造の基礎を応用し、上肢帯の機能・構造について学ぶ	
		〃	
5	9 解剖学	上肢帯の機能・構造について理解する	
		〃	
6	11 スポーツ医学	上肢帯に関するスポーツ医学的知識を学ぶ	
		〃	
7	13 スポーツ医学	上肢帯に関するスポーツ医学的知識を理解する	
		〃	
8	15 まとめ	現場に応用できるよう、上肢帯の構造・医学知識を答えることができる	
		〃	
9	17 解剖学	体幹部の機能・構造について学ぶ	
		〃	
10	19 解剖学	体幹部の機能・構造について理解する	
		〃	
11	21 スポーツ医学	体幹部に関するスポーツ医学知識を学ぶ	
		〃	
12	23 スポーツ医学	体幹部に関するスポーツ医学知識を理解する	
		〃	
13	25 まとめ	現場に応用できるよう、体幹部の構造・医学知識を答えることができる	
		〃	
14	27 解剖学	下肢帯の機能・構造について学ぶ	
		〃	
15	29 解剖学	下肢帯の機能・構造について理解する	
		〃	
	30		

限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
16	31 32 スポーツ医学	下肢帯に関するスポーツ医学的知識を学ぶ
		〃
17	33 34 スポーツ医学	下肢帯に関するスポーツ医学的知識を理解する
		〃
18	35 36 まとめ	現場に応用できるよう、下肢帯の構造・医学知識を答えることができる
		〃
19	37 38 スポーツ医学	テーピングの知識、応急処置について学び、理解する
		〃
20	39 40 スポーツ医学	上肢の整形外科的症状に対する応急処置について学ぶ
		〃
21	41 42 スポーツ医学	上肢の整形外科的症状に対する応急処置について理解する
		〃
22	43 44 スポーツ医学	下肢の整形外科的症状に対する応急処置について学ぶ
		〃
23	45 46 スポーツ医学	下肢の整形外科的症状に対する応急処置について理解する
		〃
24	47 48 試験対策	JATI試験に向けた問題を解く
		〃
25	49 50 試験対策	JATI試験に向けた問題を解く
		〃
26	51 52 試験対策	JATI試験に向けた問題を解く
		〃
27	53 54 まとめ	試験を通して理解が不足していた部分について再度学ぶ
		〃
28	55 56 まとめ	試験を通して理解が不足していた部分について再度学ぶ
		〃
29	57 58 まとめ	試験を通して理解が不足していた部分について再度学ぶ
		〃
30	59 60 まとめ	試験を通して理解が不足していた部分について再度学ぶ
		〃

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 専門科目演習 I		教員名 菅野 博子	
科目時間数： 30限 60時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修・選択	配当学年： 1 年	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 「コーチング」の学びを通して、スポーツに携わるあらゆる立場・役割について理解する、学びを得る (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☒ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 コーチングスキルについて 【授業における達成課題】 選手に対して適切な指導、声かけができる 目標や分析結果を踏まえた指導プランを構築することができる			
【使用教材・テキスト等】			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 授業態度（リアクションペーパー等）30% 出席率60% その他（グループワーク）10%			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ☒ 無 【内 容】 サッカーコーチとしての勤務経験			

科目名			科目時間総数	教員名
専門科目演習 I			30限	菅野 博子
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間 2時間	オリエンテーション	授業に関する説明、メンチメーターの使い方	
2限	3時間 4時間	グループワーク	グループワークのデモを行う	
3限	5時間 6時間	コーチングとは	コーチングの定義について学ぶ	
4限	7時間 8時間	〃	コーチングの役割について学ぶ	
5限	9時間 10時間	〃	監督、コーチ、メディカルの役割について	
6限	11時間 12時間	〃	監督、コーチ、メディカルの協力体制について	
7限	13時間 14時間	コーチングメソッド	コーチングの手法について学ぶ	
8限	15時間 16時間	〃	〃	
9限	17時間 18時間	〃	年代別のコーチングについて学ぶ	
10限	19時間 20時間	〃	〃	
11限	21時間 22時間	チームマネジメント	マネジメントに必要な資質について学ぶ	
12限	23時間 24時間	〃	チームマネジメントについて学ぶ	
13限	25時間 26時間	〃	チームビルディングについて学ぶ	
14限	27時間 28時間	〃	チームビルディングのデモを行う	
15限	29時間 30時間	〃	マネジメントするべき対象と方法について学ぶ	
16限	31時間 32時間	分析	チームにおける情報分析について考える	
17限	33時間 34時間	〃	分析の実際を知り、実践を行う	
18限	35時間 36時間	〃	〃	
19限	37時間 38時間	プランニング	チームを目標に導くためのプランニングについて学ぶ	
20限	39時間 40時間	〃	〃	
21限	41時間 42時間	〃	練習の構成について学ぶ	
22限	43時間 44時間	〃	分析から練習を構成する方法について学ぶ	
23限	45時間 46時間	〃	プランニングの実践	
24限	47時間 48時間	〃	〃	
25限	49時間 50時間	スポーツハラスメント	スポーツハラスメントについて学ぶ	
26限	51時間 52時間		安心・安全な環境をつくる方法について学ぶ	
27限	53時間 54時間	監督とは	監督の役割や指導スタイルについて学ぶ	
28限	55時間 56時間	〃	自身が理想とする監督・指導者のスタイルを考える	
29限	57時間 58時間	〃	〃	
30限	59時間 60時間	まとめ	振り返りを行う	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 専門科目演習Ⅱ		教員名 田村 健登	
科目時間数： 30限 60時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修・選択	配当学年： 2 年	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 トレーニング指導者として実際の業務を演習し、デモンストレーション能力やプログラム作成、測定と評価などを実施することができる能力を身につける。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 トレーニング指導者として知識や理論を理解した上で、エクササイズの練度を高め、ロールプレイ、ブルーデモンストレーションなどを通して、トレーニング指導者としての技術や業務の習得を目指す。 【授業における達成課題】 ・指導者として基本的エクササイズのデモンストレーションを実施することができる。 ・プログラム計画やピリオダイゼーションを作成することができる ・測定と評価について実施し、フィードバックを経てトレーニングを進めることができる。			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（トレーニング室・スタジオ）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ ☐ 無 フィットネスクラブでの勤務・トレーナーとしての活動			

科目名		科目時間総数		教員名
専門科目演習Ⅱ		30限	60時間	田村健登
限数		教育に含むべき事項・テーマ		
		主な学習内容と到達目標		
1限	1時間2時間	オリエンテーション	授業の位置付けについて理解する	
2限	3時間4時間	トレーニング演習	測定と評価について実施し、トレーニング目標を立案することができる	
3限	5時間6時間	〃	トレーニング目標を達成する為の計画やピリオダイゼーションを作成することができる	
4限	7時間8時間	〃	マシンエクササイズの正しいデモンストレーション・指導法を学び、理解する	
5限	9時間10時間	〃	パートナーストレッチについて学び、理解する	
6限	11時間12時間	〃	パートナーストレッチについて実施することができる	
7限	13時間14時間	総合演習（前期中間テスト）	マシンエクササイズの正しいデモンストレーション・指導法を理解し実施することができる	
8限	15時間16時間	〃	〃	
9限	17時間18時間	〃	クライアントとのカウンセリングについて学び、実施することができる	
10限	19時間20時間	〃	クライアントのスタティックアライメントについて学び、実施することができる	
11限	21時間22時間	〃	クライアントのダイナミックアライメントについて学び、実施することができる	
12限	23時間24時間	〃	オリンピックリフティングについて学び、理解する	
13限	25時間26時間	〃	オリンピックリフティングについてエクササイズを実施することができる	
14限	27時間28時間	総合演習（前期末テスト）	ビッグ3のデモンストレーション（指定された負荷）を実施することができる	
15限	29時間30時間	〃	〃	
16限	31時間32時間	〃	トレーニング目標を達成する為の計画やピリオダイゼーションを再考し、プログラム変数を操作することができる	
17限	33時間34時間	〃	フリーウェイトトレーニングの正しいデモンストレーション・指導法を学び、理解する	
18限	35時間36時間	〃	フリーウェイトトレーニングの正しいデモンストレーションを実施できるようになる	
19限	37時間38時間	〃	〃	
20限	39時間40時間	〃	〃	
21限	41時間42時間	総合演習（後期中間テスト）	フリーウェイトトレーニングの正しいデモンストレーション・指導法を理解し実施することができる	
22限	43時間44時間	〃	〃	
23限	45時間46時間	〃	〃	
24限	47時間48時間	〃	〃	
25限	49時間50時間	〃	〃	
26限	51時間52時間	〃	〃	
27限	53時間54時間	〃	〃	
28限	55時間56時間	〃	〃	
29限	57時間58時間	総合演習（後期末テスト）	ビッグ3のデモンストレーション（指定された負荷）を実施することができる	
30限	59時間60時間	〃	〃	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 専門科目演習Ⅱ		教員名 佐藤 翔	
科目時間数： 30限 60時間		授業の種類： ☐ 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☐ 必修・選択	配当学年： 2 年	開講時期： ☐ 前期・後期 ☒ 集中	
〔授業の目的・ねらい〕 コンプレフロスや揉みほぐしといったケアの知識や技術を身につける。 (当該科目が最も関連するDPに○) 〔ディプロマポリシーとの関連〕 ☒ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☐ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
〔授業全体の内容の概要〕 コンプレフロスの使い方を身につける。 揉みほぐしの技術を身につける。 〔授業における達成課題〕 ケアの種類や方法について正しく理解できる。 マッサージに関する国の仕組みを理解した上で、個人や状態に合わせたケアを実践できる。			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（トレーニング室・スタジオ）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ ☐ 無 スポーツチームでのトレーナー経験、柔道整復師			

科目名		科目時間総数		教員名
専門科目演習Ⅱ		30限		佐藤 翔
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間2時間	オリエンテーション	授業の位置付けについて理解する	
2限	3時間4時間	コンプレフロス	筋膜について理解する	
3限	5時間6時間	〃	(下腿) コンプレフロスの巻き方を身につける	
4限	7時間8時間	〃	(大腿部) コンプレフロスの巻き方を身につける	
5限	9時間10時間	〃	下肢のコンプレフロスのまとめを行う	
6限	11時間12時間	〃	(肩) コンプレフロスの巻き方を身につける	
7限	13時間14時間	〃	(前腕) コンプレフロスの巻き方を身につける	
8限	15時間16時間	〃	上肢のコンプレフロスのまとめを行う	
9限	17時間18時間	確認	テストを行う	
10限	19時間20時間	コンプレフロス	体幹部のコンプレフロスの巻き方を身につける	
11限	21時間22時間	〃	体幹部のコンプレフロスの巻き方を身につける	
12限	23時間24時間	〃	体幹部のコンプレフロスの巻き方を身につける	
13限	25時間26時間	確認	テストを行う	
14限	27時間28時間	まとめ	筋膜リリースに関わるまとめを行う	
15限	29時間30時間	もみほぐし	リラクゼーションとしての揉みほぐしについて学ぶ	
16限	31時間32時間	〃	〃	
17限	33時間34時間	〃	〃	
18限	35時間36時間	〃	〃	
19限	37時間38時間	〃	〃	
20限	39時間40時間	〃	〃	
21限	41時間42時間	〃	〃	
22限	43時間44時間	〃	〃	
23限	45時間46時間	〃	〃	
24限	47時間48時間	〃	指圧を用いたリラクゼーションについて学ぶ	
25限	49時間50時間	〃	〃	
26限	51時間52時間	〃	〃	
27限	53時間54時間	〃	〃	
28限	55時間56時間	確認	お題にそった施術を行う	
29限	57時間58時間		〃	
30限	59時間60時間	まとめ	振り返りを行う	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ経営学 I		教員名 伊藤 優汰	
科目時間数： 15 (30)		限 (時間)	授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習
必修・選択 の別： ☒ 必修・選択	配当学年： 1 年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 スポーツ分野を中心に、経済の仕組みについて理解する。また、マーケティングについて理解する。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☒ ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 経済の成り立ちについて考え、販売や営業に必要な素養を身につける。			
【授業における達成課題】 需要と供給の仕組みについて理解する。 各スポーツ関連企業のブランディングやマーケティングについて理解する。			
【使用教材・テキスト等】			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート ☒ 3. 出席 ☒ 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無			
【内容】			

科目名		科目時間総数	教員名
スポーツ経営学 I		15 (30)	伊藤 優汰
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1 限	1時間 2時間	オリエンテーション	授業の目的、内容について理解する。
	3時間 4時間		
2 限	5時間 6時間	需要と供給	「需要と供給」の関係性について理解し、説明することができる。
	7時間 8時間		
3 限	9時間 10時間	経営	資産を活用した経営についてゲームを用いた疑似体験し、「運用」の仕方を学ぶ。
	11時間 12時間		
4 限	13時間 14時間	物流	メーカー、小売業など、「商品のたどる流れ」について理解し、説明することができる。
	15時間 16時間		
5 限	17時間 18時間	ブランディング	各企業のロゴマークについて学び、「ブランド化」する意味を説明することができる。
	19時間 20時間		
6 限	21時間 22時間	デザイン（商品）	広く「デザイン」とはなにか理解し、商品に与えられたデザインについて説明することができる。
	23時間 24時間		
7 限	25時間 26時間	デザイン（イベント）	イベントにおける「時間」や「空間」のデザインについて学び、説明することができる。
	27時間 28時間		
8 限	29時間 30時間	デザイン（キャラクター）	企業内のキャラクターに与えられた意味や目的について学び、説明することができる。
	31時間 32時間		
9 限	33時間 34時間	マーケティング	「ニーズ」に答えるマーケティングについて学び、説明することができる。
	35時間 36時間		
10 限	37時間 38時間	マーケティング	商品の「ネーミング」に関わるマーケティングについて学び、説明することができる。
	39時間 40時間		
11 限	41時間 42時間	マーケティング	「イメージ戦略」を活用したマーケティングについて学び、説明することができる。
	43時間 44時間		
12 限	45時間 46時間	講話	業界内で働く方から講話をいただく。
	47時間 48時間		
13 限	49時間 50時間	業界分析	自身でテーマを設定し、業界内の経営方針や商品展開などについて報告するレポートを作成する。
	51時間 52時間		
14 限	53時間 54時間	業界分析	自身でテーマを設定し、業界内の経営方針や商品展開などについて報告するレポートを作成する。
	55時間 56時間		
15 限	57時間 58時間	業界分析（報告）	作成したレポートについて報告する。 授業について振り返る。
	59時間 60時間	まとめ	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ経営学Ⅱ		教員名 伊藤 優汰	
科目時間数： 15 (30) 限 (時間)		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修・選択	配当学年： 2年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 スポーツに関わる経営について理解を深め、自身のビジネスモデルを組み立てる。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☒ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 経済の成り立ちや販売や営業に必要な素養を学び、活用する。			
【授業における達成課題】 各スポーツ関連企業の経営戦略について学び、自身のプランの参考として活かすことができる。 10年後や20年後を見据えたキャリアやビジネスプランを組み立てることができる。			
【使用教材・テキスト等】			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無			
【内容】			

科目名		科目時間総数	教員名
スポーツ経営学Ⅱ		15 (30)	伊藤 優汰
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標
1 限	1時間 2時間	オリエンテーション	授業の目的、内容について理解する。
	3時間 4時間		
2 限	5時間 6時間	経営	資産を活用した経営についてゲームを用いた疑似体験し、「運用」の仕方を学ぶ。
	7時間 8時間		
3 限	9時間 10時間	行動経済学	ビジネスにおいて用いられる「行動経済学」の例について学び、説明することができる。
	11時間 12時間		
4 限	13時間 14時間	//	//
	15時間 16時間		
5 限	17時間 18時間	店舗運営	店舗の運営にかかわる経理について理解し、必要経費や事業費用について説明することができる。
	19時間 20時間		
6 限	21時間 22時間	デザイン（商品）	広く「デザイン」とはなにか理解し、商品に与えられたデザインについて説明することができる。
	23時間 24時間		
7 限	25時間 26時間	デザイン（イベント）	イベントにおける「時間」や「空間」のデザインについて学び、説明することができる。
	27時間 28時間		
8 限	29時間 30時間	デザイン（キャラクター）	企業内のキャラクターに与えられた意味や目的について学び、説明することができる。
	31時間 32時間		
9 限	33時間 34時間	マーケティング	「ニーズ」に答えるマーケティングについて学び、説明することができる。
	35時間 36時間		
10 限	37時間 38時間	マーケティング	商品の「ネーミング」に関わるマーケティングについて学び、説明することができる。
	39時間 40時間		
11 限	41時間 42時間	マーケティング	「イメージ戦略」を活用したマーケティングについて学び、説明することができる。
	43時間 44時間		
12 限	45時間 46時間	マーケティング	なぜAmazonやMicrosoftが大企業となったのか、「成功と失敗」について学び、自身の今後のプランに活かすことができる。
	47時間 48時間		
13 限	49時間 50時間	ビジネスモデル作成	自身で達成目標を設定し、そのために必要なキャリアやビジネスプランを組み込んだレポートを作成する。
	51時間 52時間		
14 限	53時間 54時間	ビジネスモデル作成	自身で達成目標を設定し、そのために必要なキャリアやビジネスプランを組み込んだレポートを作成する。
	55時間 56時間		
15 限	57時間 58時間	ビジネスモデル報告 まとめ	作成したレポートについて報告する。 授業について振り返る。
	59時間 60時間		

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ実技 I		教員名 高橋 裕貴子	
科目時間数 : 30限 60時間		授業の種類 : 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別 : 必修 選択	配当学年 : 1年	開講時期 : 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 エアロビックダンスに特化し、リズムに合わせて踊ったり、仲間と協力して創作し発表し達成感を味わうことが出来るようにする。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 エアロビックダンスのステップを習得し、それらのステップを生かしてダンスを創作する。			
【授業における達成課題】 ○エアロビックダンスのステップ名を覚え、動くことが出来る。 ○覚えたステップを組み合わせて、曲に合わせて創作することが出来る。 ○創作したダンスを発表し、達成感を味わうことが出来る。 ○協力して創作した仲間を評価し、賞賛することが出来る。			
	使用教材	出版社	
	CDラジカセ		
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (スタジオ			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 無			
【内 容】 フィットネスクラブを中心としたインストラクターとしての活動			

科目名		スポーツ実技 I		科目時間総数	限	教員名
				30		高橋 裕貴子
時間数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標		
1限	1時間	2	オリエンテーション	◇1年を通して行われる授業内容を理解する		
2限	3時間	4	エアロビックダンスを知る	●ステップ名を覚え、動作を習得する		
3限	5時間	6	〃	◎ステップ名を覚えて踊ることが出来る		
4限	7時間	8	〃	●習得したステップを組み合わせて踊る		
5限	9時間 10時間		〃	〃		
6限	11時間 12時間		〃	◎スムーズに動けるステップを組み合わせて踊ることが出来る		
7限	13時間 14時間		実践する	◇1曲に振り付けられたダンスを覚え発表する		
8限	15時間 16時間		〃	●振り付けを覚える		
9限	17時間 18時間		〃	〃		
10限	19時間 20時間		〃	〃		
11限	21時間 22時間		〃	〃 ◎振り付けを覚えて正しく踊る事が出来る		
12限	23時間 24時間		〃	●隊形を考える		
13限	25時間 26時間		〃	〃		
14限	27時間 28時間		〃	〃		
15限	29時間 30時間		〃	●発表をする		
16限	31時間 32時間		〃	◎仲間と協力し隊形を考え自分の位置を把握し踊ることが出来る		
17限	33時間 34時間		深める	◇創作する		
18限	35時間 36時間		〃	●選曲し、曲のイメージに合った振り付けを考える		
19限	37時間 38時間		〃	〃		
20限	39時間 40時間		〃	〃		
21限	41時間 42時間		〃	〃		
22限	43時間 44時間		〃	〃		
23限	45時間 46時間		〃	〃 ◎積極的にアイディアを出し、振り付けを考える事が出来る		
24限	47時間 48時間		〃	●人数の特性を生かしたフォーメーションを考える		
25限	49時間 50時間		〃	〃		
26限	51時間 52時間		〃	〃		
27限	53時間 54時間		〃	〃		
28限	55時間 56時間		〃	〃		
29限	57時間 58時間		〃	●中間発表する ◎各チームの工夫しているところを理解出来る		
30限	59時間 60時間		〃	●他のチームのアドバイスを参考に完成度を上げていく		

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ実技 I		教員名 橋場 駿士	
科目時間数： 30 (60) 限 (時間)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： 必修・選択	配当学年： 年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 地域におけるスポーツ指導者としての資質能力を育み、広くスポーツを活動を支えることのできる人材育成を目的とする。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 児童生徒への指導の流れを実際に体験し、指導についての理解を深める。			
【授業における達成課題】 児童・生徒を対象にしたスポーツ実技の指導方法や留意点について理解している。 実技に必要な運動技能を身につけている。			
【使用教材・テキスト等】 特になし			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (体育館等			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内 容】 中学教諭としての実務経験、ジュニア対象の運動教室の運営・指導			

科目名			科目時間総数	教員名
スポーツ実技Ⅰ			30限（60時間）	橋場 駿士
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限	1時間2時間	オリエンテーション	スポーツを取り巻く環境について理解している 育成年代に適したトレーニング方法について理解している	
	3時間4時間	実技		
2限	5時間6時間	実技	育成年代に適したトレーニング方法を理解している トレーニング方法を考案し、実践している	
	7時間8時間			
3限	9時間10時間	実技	育成年代に適したトレーニング方法を理解している トレーニング方法を考案し、実践している	
	11時間12時間			
4限	13時間14時間	実技	球技「ネット型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	15時間16時間			
5限	17時間18時間	実技	球技「ネット型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	19時間20時間			
6限	21時間22時間	実技	球技「ネット型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	23時間24時間			
7限	25時間26時間	実技	球技「ゴール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	27時間28時間			
8限	29時間30時間	実技	球技「ゴール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	31時間32時間			
9限	33時間34時間	実技	球技「ゴール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	35時間36時間			
10限	37時間38時間	実技	球技「ベースボール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	39時間40時間			
11限	41時間42時間	実技	球技「ベースボール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	43時間44時間			
12限	45時間46時間	実技	体づくり運動及びニュースポーツについて指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	47時間48時間			
13限	49時間50時間	実技	体づくり運動及びニュースポーツについて指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	51時間52時間			
14限	53時間54時間	実技	体づくり運動及びニュースポーツについて指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	55時間56時間			
15限	57時間58時間	実技	体づくり運動及びニュースポーツについて指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	59時間60時間			

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ実技Ⅱ (ダンス)		教員名 高橋 裕貴子	
科目時間数: 30限 60時間		授業の種類: 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別:	必修 選択	配当学年: 2年	開講時期: 前期・後期 ・集中
【授業の目的・ねらい】 日本フィットネス協会のGFI、AD資格取得を目指し、課題をひとつひとつ理解するとともに、実践できるようにする。フィットネスインストラクターの仕事を理解する。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 ○エアロビクス中級(ADBI) 試験内容(4つの動きの実践能力と指導能力)を理解した上で、実践練習する ○エアロビクス上級(ADI) 試験内容(課題に沿ったプログラム作成とその指導)うい理解し実践練習する 【授業における達成課題】 ○GFI ADの試験内容を理解する。 ○レッグカール、グレップバイン、ニールフト、ステップタッチの正しい動きが出来る。 ○タイミングよくキューイングがさせて指導が出来る。 ○課題に沿ったプログラム作成と実践が出来る。			
	使用教材	出版社	
学生用	GFIのためのフィットネス基礎理論 GFIのためのグループエクササイズ指導理論 ADBI ADIのためのエアロビクダンエクササイズ指導理論	公益社団法人 日本フィットネス協会	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (スタジオ)			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ☐ ・ 無 ☐			
【内 容】 フィットネスクラブを中心としたインストラクターとしての活動			

科目名			科目時間総数	教員名
スポーツ実技Ⅱ			30限	高橋 裕貴子
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間	2 エアロビクダンスを深める	◇創作をする(一年時の続き)	
2限	3時間	4	●選曲し、曲のイメージに合った振り付けを考える	
3限	5時間	6 //	●フォーメーションを考えて踊る	
4限	7時間	8 //	◎仲間と協力し主体的に取り組む事が出来る	
5限	9時間 10時間	指導する	●GFIのエアロビクス中級レベルの試験内容を知る	
6限	11時間	12 //	●レッグカール、グレイプライン、ニールフト、ステップタッチの正しい動きを習得する	
7限	13時間	14 //	//	
8限	15時間	16 //	●キューイングの手法を学ぶ	
9限	17時間	18 //	●動きながらキューイングをタイミングよく出す手法を学ぶ	
10限	19時間	20 //	//	
11限	21時間	22 //	//	
12限	23時間	24 //	◎キューイングの手法を理解し実践することが出来る	
13限	25時間	26 //	●試験へ向けてのリハーサル ◎試験内容を理解し準備が出来る	
14限	27時間	28 //	●GFIのエアロビクス上級レベルの試験内容を知る	
15限	29時間	30 //	●2分30秒のプログラム作成をする	
16限	31時間	32 //	//	
17限	33時間	34 //	//	
18限	35時間	36 //	//	
19限	37時間	38 //	◎課題に沿ったプログラムが作成できる	
20限	39時間	40 //	●個々にキューイングしながら作成したプログラムを指導する	
21限	41時間	42 //	//	
22限	43時間	44 //	//	
23限	45時間	46 //	◎課題に沿ったプログラムが指導できる	
24限	47時間	48 //	●グループでレッスン方式で指導練習をする	
25限	49時間	50 //	//	
26限	51時間	52 //	//	
27限	53時間	54 //	◎参加者を意識した指導が出来る	
28限	55時間	56 //	●試験へ向けてのリハーサル ◎試験内容を理解し準備が出来る	
29限	57時間	58 //	●ひとりずつリードをしてエアロビクスのレッスンをする	
30限	59時間	60 //	// ◎インストラクションがスムーズに出来る	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ実技Ⅱ		教員名 橋場 駿士	
科目時間数： 30(60)限 (時間)		授業の種類： 講義・ <u>演習</u> ・実習	
必修・選択 の別： <u>必修</u> ・選択	配当学年： 年次	開講時期： <u>前期</u> ・ <u>後期</u> ・集中	
【授業の目的・ねらい】 地域におけるスポーツ指導者としての資質能力を育み、広くスポーツを活動を支えることのできる人材育成を目的とする。			
(当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 児童生徒への指導の流れを実際に体験し、指導についての理解を深める。			
【授業における達成課題】 児童・生徒を対象にしたスポーツ実技の指導方法や留意点について理解している。 実技に必要な運動技能を身につけている。			
【使用教材・テキスト等】 特になし			
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. <u>その他</u> (体育館等			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート <u>3. 出席</u> <u>4. 授業態度</u> 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 <u>有</u> ・ 無			
【内 容】 中学教諭としての実務経験、ジュニア対象の運動教室の運営・指導			

科目名			科目時間総数	教員名
スポーツ実技Ⅱ			30限（60時間）	橋場 駿士
限・時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1限	1時間2時間	オリエンテーション	スポーツを取り巻く環境について理解している 育成年代に適したトレーニング方法について理解している	
	3時間4時間	実技		
2限	5時間6時間	実技	育成年代に適したトレーニング方法を理解している トレーニング方法を考案し、実践している	
	7時間8時間			
3限	9時間10時間	実技	育成年代に適したトレーニング方法を理解している トレーニング方法を考案し、実践している	
	11時間12時間			
4限	13時間14時間	実技	球技「ネット型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	15時間16時間			
5限	17時間18時間	実技	球技「ネット型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	19時間20時間			
6限	21時間22時間	実技	球技「ネット型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	23時間24時間			
7限	25時間26時間	実技	球技「ゴール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	27時間28時間			
8限	29時間30時間	実技	球技「ゴール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	31時間32時間			
9限	33時間34時間	実技	球技「ゴール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	35時間36時間			
10限	37時間38時間	実技	球技「ベースボール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	39時間40時間			
11限	41時間42時間	実技	球技「ベースボール型」について指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	43時間44時間			
12限	45時間46時間	実技	体づくり運動及びニュースポーツについて指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	47時間48時間			
13限	49時間50時間	実技	体づくり運動及びニュースポーツについて指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	51時間52時間			
14限	53時間54時間	実技	体づくり運動及びニュースポーツについて指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	55時間56時間			
15限	57時間58時間	実技	体づくり運動及びニュースポーツについて指導方法を理解している 指導に必要な技能を行うことができる	
	59時間60時間			

授業計画表

スポーツ健康学科 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ストレングス&コンディショニングⅠ		教員名 田村 健登	
科目時間数： 30 限 60時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修・選択	配当学年： 1 年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 トレーニング指導の実技、指導法について身につける。 また、JATI-ATIの取得に向けた理論、実技の知識を身につける。 (当該科目が最も関連するDPに○)			
【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☒ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 各種トレーニングの理論について理解した上で、実際の方法を実技を交えて実践する。			
【授業における達成課題】 トレーニング指導の基礎的な理論について理解し、指導時の注意点について説明することができる。			
【使用教材・テキスト等】 JATIトレーニング指導者テキスト（理論編、実践編）			
【使用教室】 1. ☒ HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. ☒ その他（スタジオ）			
【評価方法】 出席、授業態度、試験結果からA（80以上）、B（79～70）、C（69～60）、D（59以下）の4段階で評価する。			
【備考】			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ・ 無			
【内 容】 フィットネスクラブでの勤務、パーソナルトレーナーとしての指導			

科目名 ストレングス&コンディショニングⅠ		科目時間総数 30限 60時間	教員名 田村 健登
限・時間数	教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と達成目標	
1 1 2	オリエンテーション トレーニング計画	授業の概要について説明する トレーニングとパフォーマンスの関係について理解する	
2 3 4	レジスタンストレーニング	レジスタンストレーニングの目的について理解する トレーニング中の安全について理解する	
3 5 6	トレーニング計画	トレーニングの原理・原則について理解する トレーニングの効果について理解する	
4 7 8	トレーニング計画	トレーニングの計画について理解する	
5 9 10	レジスタンストレーニング	目的に応じたトレーニング設定について理解する マシンを使用したトレーニングについて理解する	
6 11 12	ウォームアップ クールダウン	ウォームアップ・クールダウンについて理解する リカバリーについて理解する	
7 13 14	パワートレーニング	パワートレーニングの基礎について理解する	
8 15 16	パワートレーニング	クイックリフトについて理解する	
9 17 18	パワートレーニング	プライオメトリクスエクササイズについて理解する	
10 19 20	持久力トレーニング	持久力向上トレーニングについて理解する	
11 21 22	持久力トレーニング	持久力トレーニングの実際について理解する	
12 23 24	持久力トレーニング	持久力トレーニングの実際について理解する	
13 25 26	スピードトレーニング	スピードトレーニングについて理解する	
14 27 28	スピードトレーニング	スピードトレーニングの実際について理解する	
15 29 30	スピードトレーニング	スピードトレーニングの実際について理解する	

16	31 32	ストレッチング	セルフおよびパートナーストレッチについて理解する
17	33 34	柔軟性トレーニング	柔軟性向上を目的としたトレーニングについて理解する
18	35 36	バランストレーニング	バランス能力向上を目的としたトレーニングについて理解する
19	37 38	ファンクショナルトレーニング	ファンクショナルトレーニングについて理解する
20	39 40	対象別のトレーニング	高齢者に対するトレーニングについて理解する
21	41 42		子どもに対するトレーニングについて理解する 障がい者に対するトレーニングについて理解する
22	43 44		生活習慣病患者へのトレーニングについて理解する
23	45 46		アスレティックリハビリテーションについて理解する
24	47 48	試験対策	試験に向けた対策を行う
25	49 50		〃
26	51 52		〃
27	53 54		〃
28	55 56		〃
29	57 58	まとめ	トレーニングの計画・指導に関するまとめを行う 〃
30	59 60		〃 〃

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 ストレングス&コンディショニングII		教員名 中軽米 敬太	
科目時間数： 30限 60時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修・選択	配当学年： 2年	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 健康増進及びスポーツ外傷・障害に関する知識を学び、合目的な運動処方・インストラクションを実践するための基礎を習得する。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 - 健康増進に関する知識や、スポーツ外傷・障害の予防に関する基礎知識の習得 - 健康増進、スポーツ外傷・障害の予防のための基礎的なエクササイズを学び、実践力・指導力を磨く 【授業における達成課題】 - 健康増進に関する知識や、スポーツ外傷・障害の予防に関する基礎知識を習得する - 健康増進、スポーツ外傷・障害の予防のための基礎的なエクササイズを適切に実践でき、それらを指導対象者へインストラクションできるようになる			
	使用教材	出版社	
	JATIトレーニング指導者テキスト（実践編） NSCA決定版ストレングス&コンディショニング	大修館書店 特定非営利活動法人NSCAジャパン	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（トレーニング室）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ ）			
【備考】 評価について：出席率、授業態度、及び実技試験の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ☒ 無 ☐			
【内容】 トレーニング施設での勤務経験			

科目名			科目時間総数	教員名
ストレングス&コンディショニングⅡ			30限	60時間 中軽米 敬太
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間	2生活習慣病と運動処方	イントロダクション、生活習慣病に関する概論	
2限	3時間	4	メタボリックシンドローム、肥満	
3限	5時間	6	高血圧、脂質異常症	
4限	7時間	8	糖尿病、虚血性心疾患	
5限	9時間 10時間		ロコモティブシンドローム、呼吸器系疾患	
6限	11時間12時間	スポーツ外傷・障害予防	姿勢・動作の評価と運動処方	
7限	13時間14時間		スポーツ外傷・障害各論（体幹）	
8限	15時間16時間		スポーツ外傷・障害各論（下肢）	
9限	17時間18時間		//	
10限	19時間20時間		スポーツ外傷・障害各論（上肢）	
11限	21時間22時間		//	
12限	23時間24時間	小テスト	小テストを実施し、これまで学んだ知識の定着度を計る	
13限	25時間26時間	まとめ	これまでの復習を行う	
14限	27時間28時間	ケーススタディとプログラムデザイン	具体的な競技選手別のトレーニングプログラム作成について基礎を学	
15限	29時間30時間		陸上競技・長距離（パフォーマンス向上）	
16回	31時間32時間		陸上競技・長距離（ケガをしにくい体づくり）	
17回	33時間34時間		陸上競技・短距離（パフォーマンス向上）	
18回	35時間36時間		陸上競技・短距離（ケガをしにくい体づくり）	
19回	37時間38時間		サッカー（パフォーマンス向上）	
20回	39時間40時間		サッカー（ケガをしにくい体づくり）	
21回	41時間42時間		バスケットボール（パフォーマンス向上）	
22回	43時間44時間		バスケットボール（ケガをしにくい体づくり）	
23回	45時間46時間		野球・ソフトボール（パフォーマンス向上）	
24回	47時間48時間		野球・ソフトボール（ケガをしにくい体づくり）	
25回	49時間50時間		ラケットスポーツ（パフォーマンス向上）	
26回	51時間52時間		ラケットスポーツ（ケガをしにくい体づくり）	
27回	53時間54時間	模擬トレーニングセッション	プログラム作成からインストラクションまでを一貫して実践する	
28回	55時間56時間		//	
29回	57時間58時間		//	
30回	59時間60時間	まとめ	これまでの復習を行う	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 レクリエーション I		教員名 伊藤 優汰 ／山田 健太郎	
科目時間数： 15限 30時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別：	必修・選択	配当学年： 1年	開講時期： 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 さまざまなスポーツを知り、幅広い年代への指導につなげる (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 球技を中心に、ニュースポーツを入れながら幅広い知識を学ぶ 【授業における達成課題】 運動を通じて交流を図る 地域活動の指導に自信もってあたることのできる			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (体育館、スタジオ			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (ルーブリック評価)			
【備 考】 評価について：出席率及び実技試験の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】			

科目名			科目時間総数		教員名	
レクリエーションⅠ			15限		伊藤 優汰／山田 健太郎	
限数			教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標	
1限	1時間2時間		オリエンテーション	授業を行うにあたっての注意等を理解する		
2限	3時間4時間		スポーツレクリエーション	体育館等でスポーツを実施する		
3限	5時間6時間		〃	〃		
4限	7時間8時間		〃	〃		
5限	9時間10時間		〃	〃		
6限	11時間12時間		野外レクリエーション	野外でのレクリエーション活動を行う		
7限	13時間14時間		〃	〃		
8限	15時間16時間		〃	〃		
9限	17時間18時間		〃	〃		
10限	19時間20時間		ニュースポーツレクリエーション	体育館等でニュースポーツを行う		
11限	21時間22時間		〃	〃		
12限	23時間24時間		〃	〃		
13限	25時間26時間		〃	〃		
14限	27時間28時間		〃	〃		
15限	29時間30時間		まとめ	振り返りを行う。		

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 レクリエーションⅡ		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優汰	
科目時間数： 15限 30時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☐ 必修・選択	配当学年： 2年	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 さまざまなスポーツを知り、幅広い年代への指導につなげる (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 球技を中心に、ニュースポーツを入れながら幅広い知識を学ぶ 【授業における達成課題】 運動を通じて交流を図る 地域活動の指導に自信をもってあたることのできる			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (体育館、スタジオ			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (ルーブリック評価)			
【備考】 評価について：出席率及び授業態度の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ☒ 無			
【内容】			

科目名		科目時間総数		教員名
レクリエーションⅡ		15限	30時間	山田 健太郎／伊藤 優汰
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間2時間	オリエンテーション	授業を行うにあたっての注意等を理解する	
2限	3時間4時間	スポーツレクリエーション	体育館等でスポーツを実施する	
3限	5時間6時間	〃	〃	
4限	7時間8時間	〃	〃	
5限	9時間10時間	〃	〃	
6限	11時間12時間	〃	〃	
7限	13時間14時間	野外レクリエーション	野外でのレクリエーション活動を行う	
8限	15時間16時間	〃	〃	
9限	17時間18時間	〃	〃	
10限	19時間20時間	〃	〃	
11限	21時間22時間	ニュースポーツレクリエーション	体育館等でニュースポーツを行う	
12限	23時間24時間	〃	〃	
13限	25時間26時間	〃	〃	
14限	27時間28時間	〃	〃	
15限	29時間30時間	まとめ	振り返りを行う。	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 卒業研究		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優汰	
科目時間数： 30 (60)	限 (時間)	授業の種類： 講義 ・ ☒ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修・選択	配当学年：2 年次	開講時期： ☒ 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 2年間の集大成として研究・調査などを行い卒業論文としてまとめる (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ☒ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☐ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 それぞれが設定したテーマについて研究・調査し、発表を行う。			
【授業における達成課題】 卒業論文作成・提出及び成果発表会にて発表を行う			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 ☒ 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート ☒ 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 ☒ 6. その他 (研究報告内容)			
【備 考】			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無 【内容】			

科目名			科目時間総数	教員名
卒業研究			30 (60) 限	山田 健太郎／伊藤 優汰
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1 限	1時間 2時間	テーマ設定	研究として取り組むテーマを設定する。	
2 限	3時間 4時間	準備	設定したテーマについて、目的達成に向けた準備を行う。	
3 限	5時間 6時間		〃	
4 限	7時間 8時間		〃	
5 限	9時間 10時間		〃	
6 限	11時間 12時間		〃	
7 限	13時間 14時間	研究	設定したテーマに関して研究を行う。	
8 限	15時間 16時間		〃	
9 限	17時間 18時間		〃	
10 限	19時間 20時間		〃	
11 限	21時間 22時間		〃	
12 限	23時間 24時間		〃	
13 限	25時間 26時間		〃	
14 限	27時間 28時間		〃	
15 限	29時間 30時間			
16 回	31時間 32時間	作成	発表用資料や提出用本文の作成を行う。	
17 回	33時間 34時間		〃	
18 回	35時間 36時間		〃	
19 回	37時間 38時間		〃	
20 回	39時間 40時間		〃	
21 回	41時間 42時間		〃	
22 回	43時間 44時間		〃	
23 回	45時間 46時間		〃	
24 回	47時間 48時間		〃	
25 回	49時間 50時間		〃	
26 回	51時間 52時間		〃	
27 回	53時間 54時間		〃	
28 回	55時間 56時間	プレ発表	クラス内での発表を行う。	
29 回	57時間 58時間	修正・調整	発表に向けた準備を行う。	
30 回	59時間 60時間	発表	発表を行う。	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 オリエンテーション		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優汰	
科目時間数： 4 限		8時間 授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修・選択	配当学年：1年次	開講時期： 前期・後期・ ☒ 集中	
【授業の目的・ねらい】 2年間の学校生活を送る上での必要・注意事項について理解する。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 学則・学科目標についての説明 適正検査の実施 【授業における達成課題】 学則や学科目標について理解する 学校及び学科の理解を深める			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他()			
【備 考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ☒ 無			
【内容】			

科目名			科目時間総数		教員名
オリエンテーション			4 限	8時間	山田 健太郎／伊藤 優汰
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容		
1 限	1時間 時間	2 学校生活について	学則や授業にかかわる説明を行う。		
2 限	3時間 時間	4 クラス交流	自己紹介を行う。		
3 限	5時間 時間	6 目標設定	個人・クラスの目標を決める。		
4 限	7時間 時間	8 役割決め	クラス内での役割分担をきめる。		

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 プロスポーツ スタッフ実習 I		教員名 伊藤 優汰 ／山田 健太郎	
科目時間数： 15 限 30 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： 必修・選択	配当学年： 1 年次	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 地元・岩手のプロスポーツに関わり、集客の仕方、スタッフの動きなどを学ぶ (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 プロスポーツ（いわてグルージャ盛岡・岩手ビッグブルズ）試合において、スタッフとして準備～撤収、各部署で実習を行う			
【授業における達成課題】 集客の仕方、スタッフとしての動きを習得する			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（各試合会場）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ルーブリック評価）			
【備 考】 評価について：筆記試験の点数、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無			
【内容】			

科目名			科目時間総数	教員名
プロスポーツスタッフ実習			15限	30時間 伊藤 優汰／山田 健太郎
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間2時間	オリエンテーション	授業の目的・目標について理解する	
2限	3時間4時間	実習	各ホームゲーム日に活動を行う。	
3限	5時間6時間	〃	〃	
4限	7時間8時間	〃	〃	
5限	9時間10時間	〃	〃	
6限	11時間12時間	〃	〃	
7限	13時間14時間	〃	〃	
8限	15時間16時間	〃	〃	
9限	17時間18時間	〃	〃	
10限	19時間20時間	〃	〃	
11限	21時間22時間	〃	〃	
12限	23時間24時間	〃	〃	
13限	25時間26時間	〃	〃	
14限	27時間28時間	〃	〃	
15限	29時間30時間	振り返り	活動の振り返り・評価を行う。	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 プロスポーツ スタッフ実習Ⅱ		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優汰	
科目時間数： 15限 30時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年：2年次	開講時期： 前期・後期・ ☒ 集中	
【授業の目的・ねらい】 地元岩手のプロスポーツに関わり、集客の仕方、スタッフの動きなどを学ぶ (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 プロスポーツ（いわてグルージャ盛岡・岩手ビッグブルズ）試合において、スタッフとして準備～撤収、各部署で実習を行う			
【授業における達成課題】 集客の仕方、スタッフとしての動きを習得する 試合にてイベント（集客のひとつとして）企画から実施までおこなう			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他（各試合会場）			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他（ループリック評価）			
【備考】 評価について：筆記試験の点数、レポートの点数、及び出席率を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無			
【内容】			

科目名			科目時間総数	教員名
プロスポーツスタッフ実習Ⅱ			15限	30時間 山田 健太郎／伊藤 優汰
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容	
1限	1時間2時間	オリエンテーション	授業の目的・目標について理解する	
2限	3時間4時間	実習	各ホームゲーム日に活動を行う。	
3限	5時間6時間	〃	〃	
4限	7時間8時間	〃	〃	
5限	9時間10時間	〃	〃	
6限	11時間12時間	〃	〃	
7限	13時間14時間	〃	〃	
8限	15時間16時間	〃	〃	
9限	17時間18時間	〃	〃	
10限	19時間20時間	〃	〃	
11限	21時間22時間	〃	〃	
12限	23時間24時間	〃	〃	
13限	25時間26時間	〃	〃	
14限	27時間28時間	〃	〃	
15限	29時間30時間	振り返り	活動の振り返り・評価を行う。	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 インターン実習		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優汰	
科目時間数： 15 (30) 限 (時間)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： 必修・選択	配当学年： 2 年	開講時期： 前期・後期・集中	
【授業の目的・ねらい】 ・スポーツ業界の現場を体験し、学校生活での学習のアウトプットを行うと同時に、職業理解と適性を知る機会とする。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 ・各種スポーツ団体・企業・イベントでの業務を行う。			
【授業における達成課題】 ・目指す職業への課題と適性を見つける。			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (各スポーツ団体及び企業)			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (ルーブリック評価)			
【備考】 評価について：出席率及び授業態度を勘案しA (80点以上)、B (79～70点)、C (69～60点)、D (59点以下) の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】			

科目名		科目時間総数		教員名	
インターン実習		15 (30) 限		山田 健太郎／伊藤 優汰	
限数		教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標	
1 限	1時間 2時間	オリエンテーション		授業の目的について理解する	
2 限	3時間 4時間	実習		各スポーツ団体や企業、イベントでの活動を行う。	
3 限	5時間 6時間	〃		〃	
4 限	7時間 8時間	〃		〃	
5 限	9時間 10時間	〃		〃	
6 限	11時間 12時間	〃		〃	
7 限	13時間 14時間	〃		〃	
8 限	15時間 16時間	〃		〃	
9 限	17時間 18時間	〃		〃	
10 限	19時間 20時間	〃		〃	
11 限	21時間 22時間	〃		〃	
12 限	23時間 24時間	〃		〃	
13 限	25時間 26時間	〃		〃	
14 限	27時間 28時間	〃		〃	
15 限	29時間 30時間	振り返り		活動の振り返りを行う。	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 スポーツ指導者 資格対策講座		教員名 伊藤 優汰	
科目時間数： 15限 30時間		授業の種類： ☒ 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の別： ☒ 必修・選択	配当学年： 2年	開講時期： 前期・後期・ ☒ 集中	
【授業の目的・ねらい】 スポーツ指導者に必要な知識を習得し、指導に活用することができる。 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 トレーニング知識やコミュニケーションスキル、緊急時の対応方法を理解する			
【授業における達成課題】 正しい知識で、自信をもって指導にあたることができる			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備考】 評価について：出席率及び実技試験の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無 【内容】			

科目名			科目時間総数	教員名
スポーツ指導者資格対策講座			15限	伊藤 優汰
時間数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1限	1時間2時間	スポーツ少年団の理念とその意義	スポーツ少年団の理念と意義、これからのスポーツ少年団	
2限	3時間4時間	スポーツ少年団の組織と運営	スポーツ少年団の組織、運営、活動の分野	
3限	5時間6時間	運動適正テスト	「運動適性テスト」実施の意義と活用、実施方法、その他の体力テスト	
4限	7時間8時間	指導者の役割Ⅰ	スポーツ指導者とは	
5限	9時間10時間		スポーツ指導者の倫理	
6限	11時間12時間		指導者の心構え・視点	
7限	13時間14時間		世界の舞台を目指すアスリートの発掘・育成の重要性と指導者の役割	
8限	15時間16時間	文化としてのスポーツ	スポーツの概念と歴史	
9限	17時間18時間		文化としてのスポーツ	
10限	19時間20時間	トレーニング論Ⅰ	体力とは	
11限	21時間22時間		トレーニングの進め方	
12限	23時間24時間		トレーニングの種類	
13限	25時間26時間		トレーニング計画	
14限	27時間28時間		トレーニング発表	
15限	29時間30時間	スポーツ指導者に必要な医学的知識Ⅰ	スポーツと健康	
16限	31時間32時間		スポーツ活動中に多いケガや病気（内科）	
17限	33時間34時間		スポーツ活動中に多いケガや病気（外科）	
18限	35時間36時間		救急処置（救急蘇生法）	
19限	37時間38時間		救急処置（外科的応急処置）	
20限	39時間40時間	スポーツと栄養	スポーツと栄養	
21限	41時間42時間		指導計画の立て方	
22限	43時間44時間		スポーツ活動と安全管理	
23限	45時間46時間	ジュニア期のスポーツ	発育発達期の身体的特徴	
24限	47時間48時間		発育発達期の心理的特長	
25限	49時間50時間		発育発達期に多いケガや病気	
26限	51時間52時間		発育発達期のプログラム	
27限	53時間54時間	地域におけるスポーツ振興	地域におけるスポーツ振興方策と行政のかかわり	
28限	55時間56時間	振り返り	振り返りを行う	
29限	57時間58時間	テスト	テストの実施	
30限	59時間60時間	テスト	返却・解説を行う	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 アウトドアセミナー I		教員名 伊藤 優汰 ／山田 健太郎	
科目時間数： 15 (30) 限 (時間)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 1 年	開講時期： 前期 ・ 後期 ・ 集中	
【授業の目的・ねらい】 野外活動を通じた交流を図るとともに、基本的技術を身につける ウィンタースポーツ技術の修得 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 ・ 野外活動の安全管理とアクティビティについて学ぶ ・ ウィンタースポーツを学ぶ			
【授業における達成課題】 ・ 安全な野外活動ができる ・ スキー、スノーボードの基本の動作を習得し、安定した滑走ができる			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (雫石スキー場)			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (ルーブリック評価)			
【備 考】 評価について：出席率及び実技試験の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無 【内容】			

科目名			科目時間総数		教員名	
アウトドアセミナーⅠ			15（30）		伊藤 優汰／山田 健太郎	
限数			教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標	
1	限	1時間 2時間	2 野外活動		野外活動を行う。	
2	限	3時間 4時間	〃		〃	
3	限	5時間 6時間	〃		〃	
4	限	7時間 8時間	〃		〃	
5	限	9時間 10時間	〃		〃	
6	限	11時間 12時間	〃		〃	
7	限	13時間 14時間	〃		〃	
8	限	15時間 16時間	スキー・スノーボード 実習（１日目）		安定した滑走ができるようになる。	
9	限	17時間 18時間	〃		〃	
10	限	19時間 20時間	〃		〃	
11	限	21時間 22時間	〃		〃	
12	限	23時間 24時間	〃（２日目）		〃	
13	限	25時間 26時間	〃		〃	
14	限	27時間 28時間	〃		〃	
15	限	29時間 30時間	〃		〃	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 アウトドアセミナーⅡ		教員名 山田 健太郎 ／伊藤 優汰	
科目時間数： 15 (30) 限 (時間)		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ・ 選択	配当学年： 2 年	開講時期： 前期 ・ 後期 ・ 集中	
〔授業の目的・ねらい〕 ・ 野外活動を通じた交流を図るとともに、基本的技術を身につける ・ ウィンタースポーツ技術の修得 (当該科目が最も関連するDPに○) 〔ディプロマポリシーとの関連〕 ◎ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
〔授業全体の内容の概要〕 ・ 野外活動の安全管理とアクティビティについて学ぶ ・ ウィンタースポーツを学ぶ 〔授業における達成課題〕 ・ 安全な野外活動ができる ・ スキー、スノーボードの基本の動作を習得し、スピードをコントロールした滑走ができる			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 ()			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 (ルーブリック評価)			
【備 考】 評価について：出席率及び実技試験の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ ☒ 無 【内容】			

科目名 アウトドアセミナーⅡ			科目時間総数 15 (30) 限	教員名 山田 健太郎／伊藤 優汰
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標	
1 限	1時間 2時間	野外活動	野外活動を行う。	
2 限	3時間 4時間	〃	〃	
3 限	5時間 6時間	〃	〃	
4 限	7時間 8時間	〃	〃	
5 限	9時間 10時間	〃	〃	
6 限	11時間 12時間	〃	〃	
7 限	13時間 14時間	〃	〃	
8 限	15時間 16時間	スキー・スノーボード 実習（1日目）	ターンやスピードコントロールをした滑走ができる。	
9 限	17時間 18時間	〃	〃	
10 限	19時間 20時間	〃	〃	
11 限	21時間 22時間	〃	〃	
12 限	23時間 24時間	〃（2日目）	〃	
13 限	25時間 26時間	〃	〃	
14 限	27時間 28時間	〃	〃	
15 限	29時間 30時間	〃	〃	

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療スポーツ福祉専門学校

科目名 救命救急講習会		教員名 長谷川 江利子	
科目時間数： 7限 1 4 時間		授業の種類： 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別： ☒ 必修 ☐ 選択	配当学年： 1 年	開講時期： 前期・後期・集中 ☒	
【授業の目的・ねらい】 一次救命処置の習得、修了証の取得。 【ディプロマポリシーとの関連】 (当該科目が最も関連するDPに○) ☒ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ☐ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 指導員による応急処置や救急法に関する講習を行う 【授業における達成課題】 一次救命処置の流れを習得し、講習を修了する			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (☒ MCL校舎スタジオ)			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備 考】 評価について：筆記試験及び実技試験、授業態度の点数を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 ☒ 有 ☐ 無 【内容】 看護師としての勤務経験			

科目名 救命救急講習会			科目時間総数 7限	14時間	教員名 長谷川 江利子
限数		教育に含むべき事項・テーマ	主な学習内容と到達目標		
1限	1時間 2時間	オリエンテーション	救急法の目的について学ぶ		
2限	3時間 4時間	傷害について	さまざまな傷害について学ぶ		
3限	5時間 6時間	気道異物除去	気道の異物除去方法について学ぶ		
4限	7時間 8時間	熱中症	熱中症に対する対応を学ぶ		
5限	9時間 10時間	止血法/固定法	止血方法・受傷部位への固定法を学ぶ		
6限	11時間 12時間	心肺蘇生法	AEDの使い方など、心肺蘇生について学ぶ		
7限	13時間 14時間	〃	〃		

授業計画表

スポーツ健康 学科

MCL盛岡医療福祉スポーツ専門学校

科目名 S A Qインストラクター 認定講習会		教員名 外部講師 (クレーマージャパン)	
科目時間数: 15 (30) 限 (時間)		授業の種類: 講義 ・ 演習 ・ 実習	
必修・選択 の 別 :	必修・選択	配当学年: 1 年	開講時期: 前期・後期・集中
【授業の目的・ねらい】 SAQにおけるスピード（走動作）、アジリティ（方向転換など）、クイックネス（反応の速さなど）の3領域の正しい知識・技術の習得 (当該科目が最も関連するDPに○) 【ディプロマポリシーとの関連】 ◎ 幼児期から高齢者を対象とした、生涯スポーツを通しての健康づくりと維持・増進について学び、スポーツの指導者として豊かな人間性と高度な専門知識を身につけ、人々の健康実現に貢献できる人間力の育成を目指す。 ◎ プロスポーツチームの企画に携わりスポーツを通じて人を喜ばせ、感動させる感受性豊かな人材、夢を与えられる人材育成を目指す。			
【授業全体の内容の概要】 SAQ認定講師による、実技を含む講義の実施			
【授業における達成課題】 S A Qレベル1インストラクター資格の習得			
	使用教材	出版社	
【使用教室】 1. HR 2. 介護実習室 3. 家政実習室 4. 視聴覚室 5. PC実習室 6. 接遇実習室 7. その他 (MCL校舎スタジオ)			
【評価方法】 1. 筆記試験 2. レポート 3. 出席 4. 授業態度 5. 実技試験 6. その他 ()			
【備 考】 評価について：実技試験及び授業態度を勘案しA（80点以上）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59点以下）の4段階で評価する。			
【担当教員の実務経験の有無】 有 ・ 無 【内容】 インストラクターとしての活動			

科目名 S A Qインストラクター認定講習			科目時間総数 15 (30) 限 (時間)		教員名 外部講師(クレーマー・ジャパン)	
限数			教育に含むべき事項・テーマ		主な学習内容と到達目標	
1	限	1時間 2時間	プリパレーションタイム		プリパレーションタイムの意義と実際について学ぶ	
2	限	3時間 4時間	〃		〃	
3	限	5時間 6時間	スピード		加速動作について理解する	
4	限	7時間 8時間	〃		〃	
5	限	9時間 10時間	〃		〃	
6	限	11時間 12時間	アジリティ		方向転換やラダーを使用したエクササイズについて理解する	
7	限	13時間 14時間	〃		〃	
8	限	15時間 16時間	〃		〃	
9	限	17時間 18時間	クイックネス		刺激に対して反応する	
10	限	19時間 20時間	〃		〃	
11	限	21時間 22時間	〃		〃	
12	限	23時間 24時間	体幹部のトレーニング		基本的な体幹部エクササイズについて理解する	
13	限	25時間 26時間	〃		〃	
14	限	27時間 28時間	〃		〃	
15	限	29時間 30時間	テスト		実技試験を行う	